

MITSUBA

Guarddog MITSUBA SPECIAL CAR SECURITY ALARM SYSTEM V-2

取付・取扱説明書（保証書付）

VAS対応

盗難発生警報装置の技術基準適合品



- ☆このたびは、ガードックV-2をお買い上げ頂きまして、ありがとうございます。
- ☆ご使用になる前に、本冊子を必ずお読み頂き、正しくご使用下さい。
- ☆お読みになった後も、本冊子は必要なときに確認出来るよう大切に保管して下さい。
- ☆本品を譲渡される場合や別の車に取り付け直す場合も、本冊子を必ず本品に付帯させ、お使いになる人が、いつでも見られるようにして下さい。
- ☆本品付属のVAS登録証に必要事項を記入の上、車検証とともに大切に保管して下さい。VAS登録証は再発行致しません。
- ☆本品は、日本国内でのみご使用頂けます。

この取付・取扱説明書では安全上重要な項目に下記のマークを表示しています。各マークの意味は次の通りです。

-  **危険** …… 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを意味します。
-  **警告** …… 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを意味します。また法律に違反することを意味します。
-  **注意** …… 取り扱いを誤った場合、傷害を負う危険が想定されることを意味します。また本品を損傷、故障させる恐れがあることを意味します。

	ページ
はじめに	
■安全に使用するための注意	4～5
■安全に取り付けるための注意	6～7
■商品の特長	8～11
■パッケージセット内容	12
■主要部品の名称	13～15
■お使いになる前に	
□電池の挿入	16
□リモコンを充電する	17
操作方法	
■リモコンの操作方法	
□電源の入れ方・切り方	18
□マナーモードの設定／解除	19
□ボタン操作禁止の設定／解除	20
■警報機の基本操作	
□警報機を動作させる(警戒ON)	21
□警報機を停止させる(警戒OFF)	22
□3警戒ステージ×3警戒モードについて	23
□警報機の警戒パターンを変更し、動作させる	23～24
□使用頻度の高い警戒パターンを登録する	25
□異常を感知したときの通報内容一覧	25～26
□異常を感知したときの警報内容一覧	27～29
□車両側の警報を停止させる	30
□リモコンの通報音のみ停止させる(ミュート機能)	30
□警報履歴を確認する	31
□カーファインドを動作させる	32
□パニックアラームを動作・停止させる	33
□警報機のみ停止する	34
□ドアのみ施錠する	35
□ドアを解錠する	36
□リモコンのエラー表示について	37
■警報機の応用操作	
□バイブレーション機能の併用設定／解除	38
□リモコン操作時のアンサーバック音切り替え方法	39
□通報音切り替え方法	40
■充実の警報履歴通知機能	
□ボタン操作時の警報履歴通知機能	41
□定期通信による警報履歴通知機能	41
□警報停止時の警報履歴通知機能	41
□電源投入時の警報履歴通知機能	41

	ページ
操作方法(つづき)	
■充実の安心機能	
□警戒パターンメモリー機能	42
□本体のオートスリープ機能	42
□リモコンのオートスリープ機能	42
■振動センサーの感度調整方法	43
取付方法	
■基本接続図	44
■取り付け作業	
□取り付け前の事前準備	45
□取り付けレイアウトイメージ	45
□メインハーネスの配線	45～46
□振動センサーの取り付け	47
□サイレンの取り付け	47
□アンテナユニットの取り付け	48
□ハザードハーネスの配線(任意)	48
□ドアロックハーネスの配線(任意)	49～50
□本体の取り付け	51
□基本動作の確認	51～53
□仕上げ	53
■オプションセンサーの取り付け	
□基本配線方法	54
□オプションの振動センサー配線方法	54
□特殊配線方法	55
■威嚇警報オプションの取り付け	
□スキャニングLED(別売)の取り付け	56
□ボイスモジュール(別売)の取り付け	56
■その他オプション配線方法	
□車載ホーンへの配線方法(選択)	57～58
その他	
■故障かな?と思ったら	59～60
■リモコンの電池交換について	61
■リモコンの購入について	61
■仕様	61
■設定内容確認表	62
■盗難発生警報装置の保安基準について	62
■アフターサービスについて	63
■保証書	64

安全に使用するための注意

安全に使用するための注意

はじめに

はじめに

安全上の注意

⚠ 危険

- 電池の⊕⊖の逆挿入は、絶対にしないで下さい。電池が漏液・発熱・破裂し、故障の原因となります。
- 付属の充電アダプターで充電を行う前に、リモコンに装着された電池が、当社指定の充電電池であるか必ず確認して下さい。当社指定以外の充電電池および1次電池(アルカリ電池・マンガン電池など)を装着して充電を行うと、電池が漏液・発熱・破裂し、故障の原因となります。特に未使用の1次電池を充電した場合、漏液・発熱・破裂などの発生率が高くなります。
- ニッケル水素電池の液が、誤って目に入った場合は、こすらず、ただちに水道水で十分洗浄し、すぐに医師の診断を受けて下さい。失明の原因となります。

⚠ 警告



サイレンは、大音量のため、耳のそばで動作させたり、長時間試聴しないで下さい。耳に障害を与える恐れがあります。



動作を確認する際は、必ず車の外に出てから行って下さい。また周囲に人がいないことを確認して下さい。ショックを与える恐れがあります。



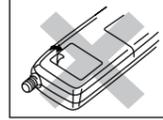
本体・振動センサーのコネクター部にドライバーなどの金属を接触させたり、異物を入れたりしないで下さい。内部でショートし、発火する恐れがあります。



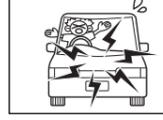
リモコンの電池を交換した際は、幼児の手の届かないところにおいて、早めに処分して下さい。万一口み込んでしまった場合やもれた液をなめたりした場合は、すぐにうがいをし、医師に相談して下さい。



人(特にお子様)やペットが車内にいるときは、絶対に警報機を動作させないで下さい。警報を発生し、耳に障害を与える恐れがあります。



リモコンおよびアンテナユニット裏面のラベルを絶対に、はがさないで下さい。ラベルのないものを使用することは、法律で禁じられています。



警報機を動作させた状態で、運転しないで下さい。重大な事故の原因となります。



本品は、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けております。分解・改造することは、法律で禁じられていますので、絶対にしないで下さい。

- 心臓ペースメーカーなどの医療機器を使用している人は、必ず医師や医療機器製造者などへ相談の上、使用して下さい。また医療機器への影響を防止するため、病院内では必ずリモコンの電源をOFFにして下さい。
- ニッケル水素電池の液が、誤って皮膚に付着した場合は、こすらず、ただちに水道水で十分洗浄して下さい。異常がある場合は、医師の診断を受けて下さい。

⚠ 注意



本品は、国産車専用です。並行輸入車・外国車へは、取り付け出来ません。



リモコンを落としたり、硬い物にぶつけないで下さい。またアンテナは、引っばったり、曲げたりしないで下さい。故障の原因となります。



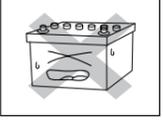
本品は、12V車専用です。24V車へは、取り付け出来ません。



動作確認で車に振動を与える場合は、強く叩きすぎてケガをしないように気をつけて下さい。またガラスやボディーなどが、破損しないように十分注意して下さい。



リモコンは、高温になる場所に放置しないで下さい。変形や変色・故障の原因となります。



車のバッテリーが弱っている場合や車本来の機能に不備がある場合は、正常に動作しないことがあります。



本品は、防水構造ではありません。水がかからないように注意して下さい。特に衣類のポケットなどに入れたまま洗濯したり、水の中に落としたりしないで下さい。故障の原因となります。またエンジンルームの洗浄の際は、一旦サイレンを外して下さい。ショートし、火災・故障の原因となります。



本品の分解・塗装・改造は絶対に行わないで下さい。火災・故障の原因となります。

使用上の注意

- 本品は、車両へのいたずらや盗難に対して警告・警報を発するものであり、車両盗難や車上狙いなどを防止するものではありません。本品を取り付けたお車が、万一盗難やいたずらなどの被害に遭われても、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承下さい。また故障・誤動作などにより警報機が使用出来なかった場合の付随的保証についても、同様に当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承下さい。
- 車から離れる際は、確実に施錠されたことを確認して下さい。
- 他のエンジンスターターやターボタイマーとの併用は、絶対にしないで下さい。誤動作や不動作の原因となります。
- 他の盗難警報機(車両に標準装備された警報機含む)と同時に使用することは出来ません。本品を動作させる際は、他の警報機をOFFにして使用して下さい。誤動作の原因となります。なお、他の警報機がOFF出来ない車への取り付けは出来ません。
- 下記のような環境下で使用した場合は、警報を発することがあります。
 1. 強風・豪雨・雷雨・台風などの気象条件の場合。
 2. 地震が起きた場合。
 3. 線路付近・幹線道路沿い・工事現場付近・飛行場付近などの振動が発生する場所。
- 本品の近くで大出力の無線機などを使用されると、無線機の発する電磁波で、誤動作や不動作となる場合があります。
- 本品のリモコンの電波到達距離は、周囲の環境・アンテナユニットの設置状態・リモコンの取り扱いによって変化します。一般的に建物内や周囲に鉄筋コンクリートの建物があったり、高圧送電線や大出力の無線機などのノイズ発生源があったりすると、電波到達距離が短くなります。またアンテナやリモコンを手などで覆っても、同様に短くなります。
- 金属製のアタッチケースなどにリモコンを入れて使用すると、電波を通さないため通報を受信出来ません。
- エンジンキーや純正キーレスで施錠した場合、車両の持つセキュリティ機能が働き、本品のリモコンで解錠出来なくなる車があります。その際は、リモコンで警報機を解除してから、エンジンキーまたは純正キーレスで解錠して下さい。
- 運転席ドアが施錠状態で他のドアが解錠状態のとき、リモコンで施錠操作を行っても、他のドアが施錠しない車があります。その際は、リモコンで解錠操作を行ってから施錠操作を行って下さい。
- 運転席ドアが解錠状態で他のドアが施錠状態のとき、リモコンで解錠操作を行っても、他のドアが解錠しない車があります。その際は、リモコンで施錠操作を行ってから解錠操作を行って下さい。
- ヒューズを交換する際は、ヒューズ部が高温となって、火傷する恐れがあります。また使用中は、ヒューズ周辺の温度が上がります。
- リモコンが汚れた場合は、薄めた中性洗剤を布に染み込ませ、よく絞ってから拭き、乾いた布でもう一度拭いて下さい。ベンジン・シンナーなどは、絶対に使用しないで下さい。変形や変色・故障の原因となります。
- 長期間リモコンを使用しない場合は、すみやかに電池をリモコンから取り出して下さい。電池の漏液や錆の発生・電池の性能低下や寿命低下の原因となります。
- リモコン本体にキーホルダーなどを取り付ける場合は、必ず付属のホルダーリングに取り付けて下さい。破損の原因となります。

安全に取り付けるための注意

安全に取り付けるための注意

はじめて

はじめて

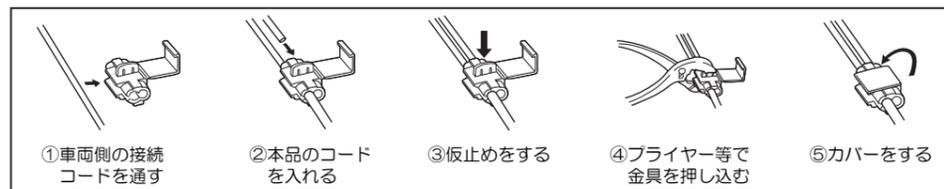
取り付け上の注意

- 危険** ●本品を車に取り付ける際は、必ずエンジンキーを抜き、不用意にエンジンがかからない状態で作業して下さい。重大な事故の原因となります。
- 警告** ●本品の各ユニットのコネクター部にドライバーなどの金属を接触させたり、異物を入れたりしないで下さい。内部でショートし、火災・故障の原因となります。
●本品の各ユニットは、運転の妨げになる場所やエアバッグの動作を妨げる場所に取り付けしないで下さい。事故の原因となります。
●ハーネス類などは、ステアリングシャフトやペダル類の可動部付近に固定しないで下さい。運転操作の妨げになり、事故の原因となります。
●配線したハーネス類は、ビニールテープや結束バンドなどで確実に固定して下さい。また車のカバーや内張りなどで配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートし、火災・故障の原因となります。
●取り付け後に、各ユニットや配線類が、しっかり固定されているか確認して下さい。固定が不十分だと脱落し、事故の原因となります。
●ハザードハーネスの赤/白コード(常時電源線)の配線は、車両側のハザード電源線以外の場所に接続しないで下さい。車両のヒューズ切れや事故の原因となります。
- 注意** ●テスターで電圧を確認する場合を除き、バッテリーケーブルのマイナス端子を外して作業を行って下さい。外さずに作業すると配線がショートし、火災・故障の原因となります。外しかたについては、車両搭載装置に悪影響を与える恐れがありますので、お近くのカーディーラーやサービスマニュアルなどで確認して下さい。
●本品の各ユニットは、防水構造ではありません。水がかからない場所に取り付けて下さい。火災・故障の原因となります。
●本品の各ユニットは、エアコンの吹き出し口付近に取り付けしないで下さい。高温になったり結露し、故障の原因となります。
●エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックして下さい。エレクトロタップの金属部分が、車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。
●車のカバーやドアの内張りを外す際は、部品を破損しないように慎重に作業して下さい。カバーや内張りが元に戻らなくなる恐れがあります。
●下記の場所へは、絶対にサイレンを取り付けしないで下さい。故障の原因となります。
・エンジン本体・ラジエター・エキゾーストマニホールド(排気系)付近。
・駆動部付近(ファンなど)。
・直接水がかからない場所。(グリルまわりなどは避ける。)
●振動センサーは、しっかりと固定して下さい。固定が不十分だと感度が鈍くなります。
●アース線を固定する場合、塗装されている金属部分や車の振動などで緩んでしまうような場所に接続しないで下さい。動作不良の原因となります。
●ヒューズユニットは、必ず車両側の青色(同じ定格電流)ヒューズと差し替えて下さい。色の違うヒューズと差し替えた場合、ヒューズが切れたり、車両側に悪影響を与える恐れがあります。
●接続していない端子部は、ビニールテープなどで絶縁処理して下さい。ショートし、火災・故障の原因となります。

- 取り付け工具について
ドライバー・プライヤー・ニッパ・スパナ・アナログテスター(検電ランプは使用不可)などの工具は、本品には同梱されていません。別途用意して下さい。

- 注意** ●必ずテスターを使用して下さい。検電ランプを使用すると、車両の回路破損などの故障の原因となります。

●付属のエレクトロタップ(赤色)の接続方法



取り付け可能な車種

- 国産車** ●本品は、国産車専用です。並行輸入車・外国車へは、取り付け出来ません。
- 12V** ●本品は、12V車専用です。24V車へは、取り付け出来ません。
- ドアロック** ●全てのドア、テールゲートまたはハッチにカーテシスイッチがあること。(※ボンネットおよびトランクは除く)
ドアを開けたときに、ボディーアースと導通する(またはOV付近まで電圧降下する)配線がない車には取り付け出来ません。
- コンバーチブル車** ●コンバーチブル車(オープンカー)でないこと。
本品は、防水構造ではありませんので、水がかかる恐れのある車には取り付け出来ません。

【ドアロック配線が可能な車種】

店頭「ドアロック適応車種一覧表」の最新版を確認して下さい。
車種によって取り付け出来ない車や別売商品が必要となる車があります。
※上記適応表は、ドアロック配線可否の目安です。盗難警報機の適応ではありません。

【ハザード配線について】

本品のハザード点滅回路で、車両側のハザードを点滅させることが出来ない車があります。新型車については、当社技術サービスまでお問い合わせ下さい。
[2006年9月現在・・・エルブランド(型式:E51)、MPV(型式:LY)]

セキュリティ機能

3警戒ステージ×3警報モードシステム搭載

どんな環境下においても安心してお使い頂けるよう、警戒の異なる3つのステージと警報の異なる3つのモードを準備し、その組み合わせにより合計9つの警戒パターンを設定出来るようにしました。それぞれの特徴をよく理解して頂き、使用する環境に最適と思われる警戒パターンでご使用下さい。

●3警戒ステージ

【警戒ステージ1】

外乱振動の少ない環境下で使用する場合に設定します。このステージは、全てのセンサーで警戒を行います。

【警戒ステージ2】

線路付近や交通量の多い幹線道路沿いなど、外乱振動の発生があらかじめ予測出来るような場所で使用する場合に設定します。振動センサーの「小振動」およびオプションセンサー「レベル3」(別売)以外のセンサーで警戒を行います。

【警戒ステージ3】

「警戒ステージ2」よりも、さらに外乱振動が多発するような場所(機械式駐車場など)で使用する場合に設定します。このステージは、誤動作の少ないドアスイッチセンサーおよびオプションセンサー「レベル1」(別売)で警戒を行います。

●3警報モード

【警報モードA】

感知したセンサーが、通常の警報(30秒/5秒/1秒)を行う設定です。

【警報モードB】

「近所迷惑が気になるので、警報を長時間鳴らしたくない。」という場合に設定します。ドアスイッチセンサー以外の警報は、全て1秒警報となります。(ドアスイッチセンサーのみ30秒警報)

【警報モードC】

「近所迷惑が気になるので、警報を鳴らしたくない。」という場合に設定します。ドアスイッチセンサー以外の警報はサイレンで行いません。(ドアスイッチセンサーのみサイレン作動)

安心の2重監視システムを標準装備

●ドアスイッチセンサー

信頼のドアスイッチセンサーを標準装備しました。ドアを開けられるという最も重大な状況に対して、確実にセンサーが感知します。

●2段階振動センサー

大小2段階の振動を感知する振動センサーを標準装備しました。ガラス割りなどの外部から加えられる衝撃に対して、確実にセンサーが感知します。〔ご購入時、振動センサーの大・小の各感度調整は、それぞれ最大(最も「敏感」)に設定されています。〕

充実の警報システムを標準装備

●サイレン警報

最大120dBの1音色サイレンを標準装備しました。異常を感知すると、警報し威嚇します。

●ハザード警報

ハザード警報を標準装備しました。異常を感知すると、ハザードを点滅させ威嚇します。

●アンテナユニットLED警報

アンテナユニットLED警報を標準装備しました。異常を感知すると、アンテナユニットのLEDを点滅させ威嚇します。

●車載ホーン警報

標準装備のサイレンでなく、車載ホーンを警報させる機能も搭載しています。異常感知したときの警報を車載ホーンで行い、威嚇効果を更に発揮します。

LED威嚇機能搭載

警報機動作中は、アンテナユニットのLEDで点滅を行い、警戒中であることを周囲にアピールし威嚇効果を発揮します。

セキュリティ機能(つづき)

充実の警報履歴通知機能搭載

●ボタン操作時の警報履歴通知機能

リモコンが異常感知通報を受信した場合、最初のリモコンボタン操作時に警報履歴を表示させる機能です。リモコンへの通報に気づかなかった場合でも、ボタン操作時に再度警報履歴を表示することで、見逃しを防止します。

●定期通信による警報履歴通知機能

警報履歴を本体からリモコンへ定期的に通信する機能です。リモコンが通信圏外にあった場合でも、定期通信「約3分に一度」を行うことで、リモコンへ警報履歴を確実に通知します。

●警報機停止時の警報履歴通知機能

リモコンが異常感知通報を受信した場合、警報機停止操作時に警報履歴を表示させる機能です。警報機を停止したときに警報履歴があったことを再度表示し、再認識して頂きます。

●電源投入時の警報履歴通知機能

リモコンの電源投入時に車両の状態を確認する機能です。警報機動作中にリモコンの電源が切れてしまった場合でも、電源投入時に車両の状態を確認することで、警報履歴を確実に通知します。

パニックアラーム機能搭載

パニックアラームとは、警報機の動作有無に関係なく強制的に警報を30秒間鳴らすことが出来る機能です。不審者が車に近づいたときなど、強制的に警報を発したい場合に使用します。

豊富なオプション商品

- 重要** ●「盗難発生警報装置」の保安基準の対象車両は、下記の通りです。
 小型・普通自動車：2006年7月以降の初度登録車両。
 軽自動車：2008年7月以降の初度検査車両。
 ●保安基準では、警戒時の消費電流が30mA以下と定められています。オプションセンサーを接続する際は消費電流値にご注意下さい。
 V-2装着時の消費電流・・・警戒時：21.5mA

オプションセンサーを取り付けることにより、お車に合わせた監視を実現します。

名称	センサーレベル	監視位置	機能
鍵穴センサー (品番：TKP-01)	レベル2	・ドアの鍵穴	キーシリンダー付近で発生する金属音を感知します。ビッキング対策です。(消費電流：警戒時 13mA)
エリアセンサー (品番：TKP-02)	レベル3	・車内外	車内または車外へ電磁バリアを張り巡らせ、エリア内への物体の接近を感知します。(消費電流：警戒時 10mA)
パーツ保護ワイヤー (品番：TKP-03)	レベル1	・ナビ ・オーディオ等	パーツが外されたことを感知します。パーツ盗難対策です。(消費電流：警戒時 2mA)
2段階振動センサー (品番：TKP-04)	レベル3	・車体ボディ ・ガラス	車体に加えられた振動を2段階で感知します。主にガラス割り対策です。(消費電流：警戒時 3mA)
超音波センサー (品番：TKP-05)	レベル2	・車内	車内に超音波を張り巡らせ、車内侵入を感知します。車上狙い・車両盗難対策です。(消費電流：警戒時 10mA)
赤外線センサー (品番：TKP-06)	レベル1	・車内	車内に赤外線を張り巡らせ、車内侵入を感知します。車上狙い・車両盗難対策です。(消費電流：警戒時 8mA)

その他オプション(別売)商品

名称	機能
スキャンニングLED(BLUE) (品番：TKP-07)	青の超高輝度LEDによるスキャンニング点滅で威嚇効果を発揮します。警報状態も確認出来るインテリジェントLEDです。(消費電流：警戒時 7mA)
スキャンニングLED(WHITE) (品番：TKP-08)	白の超高輝度LEDによるスキャンニング点滅で威嚇効果を発揮します。警報状態も確認出来るインテリジェントLEDです。(消費電流：警戒時 7mA)
ボイスモジュール (品番：TKP-09)	多彩なメッセージを収録したボイス機能を搭載。日本語/英語による音声と電子音にて警報を発します。動作状態も確認出来るインテリジェントアラームユニットです。(消費電流：警戒時 7mA)
エンジンスターターキット (品番：STK-01) (保安基準対象外)	本品のリモコンでエンジンの始動/停止が出来るようになります。またアイドリング時間の設定やターボタイマーの設定などの機能も搭載しています。なお、取り付け可能な車種については、店頭「適応車種一覧表 EGSシリーズ Guardogシリーズ」の最新版を確認の上、車に適応した当社専用のハーネスで取り付けして下さい。

リモコン機能

充電式リモコン採用

本品は、充電式リモコンを採用しています。1回の充電時間は約6時間で、セーブ機能が働くまで約100時間監視可能。
※リモコン操作および警報通知が一度もなく、車両側の異常を監視した場合のみの時間です。使用環境により変化します。

多彩な液晶画面警報通知

車の警報状態を3色のバックライトで液晶画面に表示。バックライトの色で車の異常状態が一目で判断出来るようにしています。また感知したセンサーと警報時間・サイレンで警報を行っているかアイコンで確認出来ます。

●バックライト表示

赤:本警報 橙:注意警報 黄:威嚇警報

●アイコン表示

🚪:ドアスイッチセンサー感知 📡:振動センサー小振動感知 📢:サイレン警報
📡:振動センサー大振動感知 📡:オプションセンサー感知

●警報時間表示

🕒:30秒警報 ⌚:5秒警報 ⌚:1秒警報

リモコン操作時のアンサーバック音切り替え機能搭載

リモコン操作時のアンサーバック音を音声/ブザー音に切り替えることが出来る機能です。

通報音切り替え機能搭載

リモコンの通報音を音声/ブザー音に切り替えることが出来る機能です。

マナーモード機能搭載

リモコンの操作音や通報音などを消音し、バイブレーションにて確認出来るようにする機能です。周囲に迷惑がかかる環境下で使用する場合に設定します。

ボタン操作禁止機能搭載

リモコンのボタンをロックし、不用意なボタン操作が出来ないようにする機能です。リモコンが通報音を発している場合のみ、通報音と車両側の警報を(RST)ボタンで停止することが出来ます。

バイブレーション機能搭載

リモコンの発する音に合わせてバイブレーションを動作させ、音と振動にて確認出来るようにする機能です。

ミュート機能搭載

リモコンの通報音のみ途中で停止することが出来る機能です。この機能は、リモコンの通報音のみ停止し、車両側は継続して警報を行います。

オートスリープ機能搭載

リモコンの電池容量を確保するための機能です。2つのモードで段階的に電池の消耗を抑え、電池の負担を軽減します。

●低電圧モード

アイコン表示が1目盛(🔋)になった時点で、低電圧モードの通知音「ビビビビビビッ」が鳴り、バックライトとバイブレーションの機能を停止します。

●スリープモード

低電圧モードの通知音「ビビビビビビッ」が鳴ってから約3分後、強制的に電源を切ります。その後は、再度電源を入れることで警報機停止操作(警戒OFF)が、5回程度行えます。このような状態になった場合は、すぐに充電を行ってください。

その他機能

カーファインド機能搭載

警報機の動作有無に関係なく強制的にサイレンとハザードを2秒間動作させることが出来る機能です。広い駐車場などで車両の位置を確認する際に使用します。

動作確認音消音機能載

リモコン操作時の車両側の動作確認音を消音することが出来る機能です。「近所迷惑が気になるので、警戒ON/OFFの確認音を出したくない。」という場合に設定します。この場合は、アンテナユニットのLED・ハザードで動作の確認をして下さい。

ドアロック機能搭載

リモコン操作で、ドアの施錠および解錠が出来るようにする機能です。但し、車種によって取り付け出来なかったり、別売商品が必要となる場合があります。

本体オートスリープ機能搭載

車両のバッテリーを保護する機能です。3つのモードで段階的にバッテリーの消耗を抑え、負担を軽減します。

●省エネモード

7日間連続で警報機を動作させた場合、省エネモードに入り、ドアスイッチセンサー以外のセンサーを全て停止します。またアンテナユニットのLED表示も遅い点滅となります。但し、スリープモード1の条件(14日間エンジンを始動しない)が、省エネモードの条件よりも先に当てはまると、スリープモード1に入ります。

●スリープモード1

下記どちらかの条件に当てはまるとスリープモード1に入り、ドアスイッチセンサー以外のセンサーを全て停止します。またアンテナユニットのLED表示も停止します。
【スリープモード1の条件】
・14日間連続で警報機を動作させた場合。
・14日間エンジンを始動させない状態が続き、そのとき警報機が動作していた場合。

●スリープモード2

14日間エンジンを始動させない状態が続き、そのとき警報機が停止していた場合、スリープモード2に入り、本体機能を全て停止します。

警戒パターンメモリー機能搭載

警報機が動作中に警報機の電源(バッテリーなど)が切られた場合でも、電源が切られる前の状態を警報機が記憶し、電源が再投入された時点から再度警戒を開始する機能です。行為的に電源が切られた場合でも、警報機は自動停止しません。

リモコン増設機能搭載

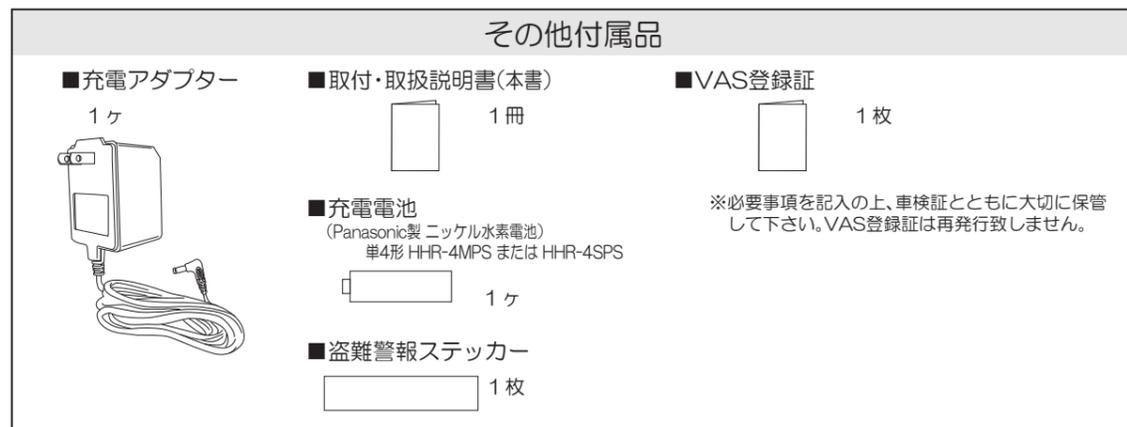
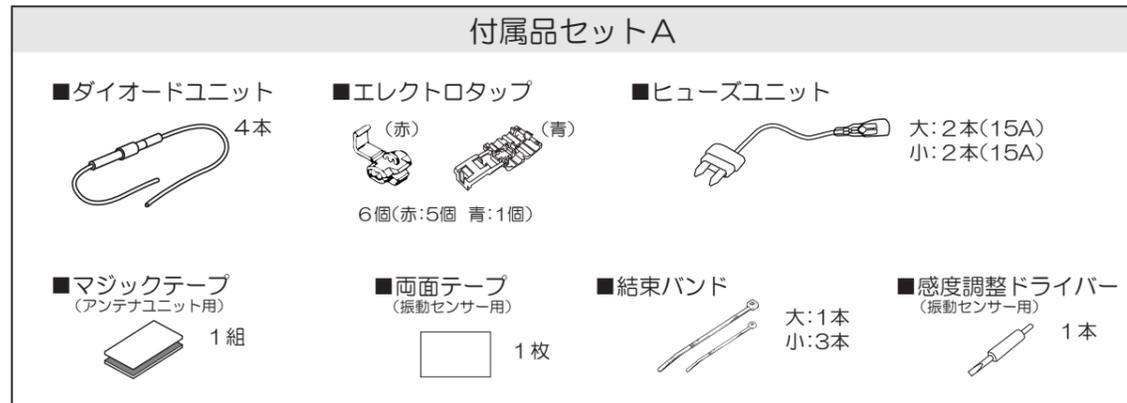
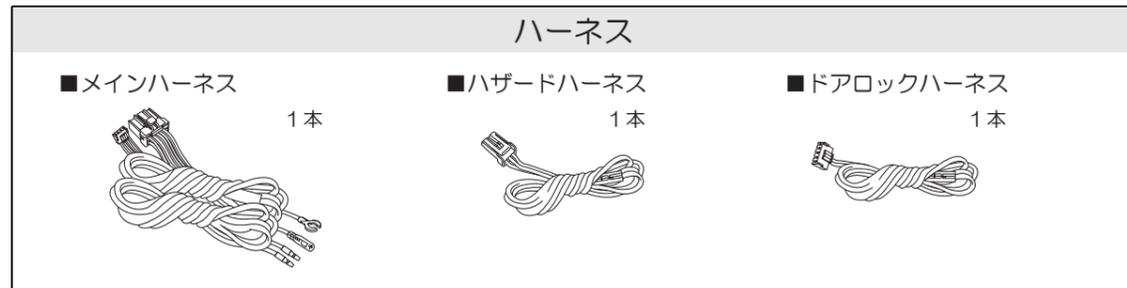
リモコンは、最大4個(本品リモコン含む)まで登録可能です。

パッケージセット内容 ※接続前に、内容物を確認して下さい。

主要部品の名称

はじめに

はじめに



リモコン

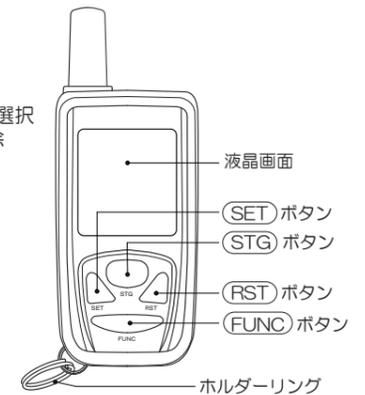
【ボタンの説明】

●: ボタン短押し操作内容 ★: ボタン長押し操作内容

(SET) ●警戒ON ★マナーモードの設定/解除
(SET) ●警戒ステージ_警報モードの選択 ★ボタン操作禁止の設定/解除

(RST) ★電源ON/OFF ●警戒OFF ●警戒履歴の確認
(RST) リセット ●警戒OFF ●警戒履歴の確認

(STG) + (FUNC) ★パニックアラーム動作開始



【アイコンの説明】

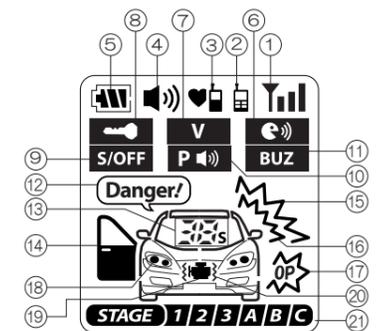
- ...受信電波強度を3段階で表示。電波送受信時に表示。
 【電波受信強度の表示内容】
 ●電波受信強度が強い: (アンテナ3本表示)
 ●電波受信強度が弱い: (アンテナ1本表示)

【送受信表示】
 送信動作: → → → ... (くり返し)
 受信動作: → → → ... (くり返し)

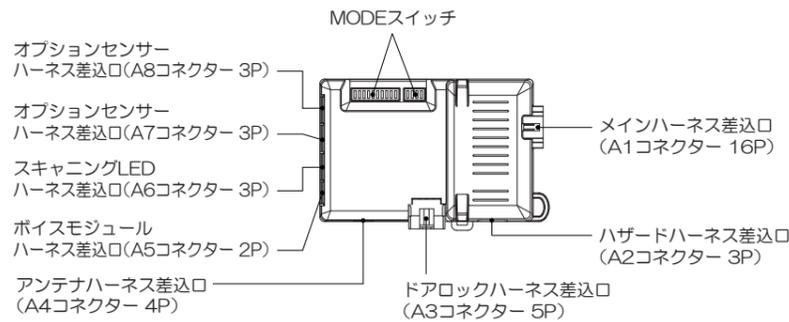
- ...点灯時: ボタン操作可能
 消灯時: ボタン操作禁止
- マナーモードに設定した場合に表示。
- サイレン吹鳴時に表示。
- リモコン電池残量を3段階で表示。



- リモコン操作時のアンサーバック音または通報音を音声に設定した場合に表示。
- バイブレーションに設定した場合に表示。
- ドアをロックした場合に表示。
 (ドアロックハーネスの配線有無に関係なく、リモコンの操作状態を表示します。)
- ドアを解錠せずに、警報機を解除する場合に表示。(S: セキュリティーの意味)
- カーファインド(車両の位置確認)動作時に表示。(P: パーキングの意味)
- リモコン操作時のアンサーバック音または通報音をブザー音に設定した場合に表示。
- 異常感知通報や警報履歴を受信した場合に表示。(警戒OFFするまで常時表示)
- 警報時間・通信エラー内容・リモコンの登録No.を表示。
- ドアスイッチセンサーが異常を感知した場合に表示。
- 振動センサーが強い振動を感知した場合に表示。
- 振動センサーが弱い振動を感知した場合に表示。
- オプションセンサーが異常を感知した場合に表示。
- 常時表示し、リモコンで警戒ON操作した場合にアニメーション表示。
- エンジン始動中表示。(エンジンスターターキット(別売)を取り付けた場合のみ)
- エンジンアイドルリング中表示。(エンジンスターターキット(別売)を取り付けた場合のみ)
- 警戒パターン(警戒ステージ_警報モード)を表示。



本体

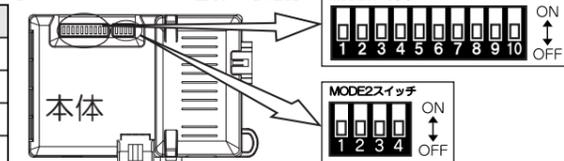


本体MODEスイッチの機能と設定

【MODE1スイッチ】

		OFF	ON
1	動作確認音	あり	なし
2	スタンバイモード時間切替	30秒	5秒
3	OP1 センサーレベル	レベル2	レベル1
4	OP2 センサーレベル	レベル3	レベル2
5	車載ホーン配線	しない	する
6	動作確認音選択	サイレン(ホーン)	ボイス
7	本警報 警報音選択	サイレン(ホーン)	ボイス
8	注意警報 警報音選択	サイレン(ホーン)	ボイス
9	威嚇警報 警報音選択	サイレン(ホーン)	ボイス
10	リモコン登録	通常	登録

【MODEスイッチの名称と役割】



【MODE2スイッチ】

		OFF	ON
1	EGSパワースイッチ	OFF	ON
2	EGS機能設定	設定不可	設定可
3	ガソリン/ディーゼル切替	ガソリン	ディーゼル
4	ターボタイマー	解除	設定

【MODE1スイッチ】

- 1 動作確認音
動作確認音「あり/なし」を設定する場合に使用します。MODEスイッチをONにすることで、確認音を消音することが出来ます。この場合は、アンテナユニットのLED・ハザードで動作の確認をして下さい。ご購入時の設定は、動作確認音あり(MODEスイッチOFF)となっています。
- 2 スタンバイモードの時間切替
警戒を開始するまでのスタンバイモード時間「30秒/5秒」を変更する場合に使用します。ご購入時の設定は、30秒(MODEスイッチOFF)となっています。
- 3 OP1 センサーレベル
接続するオプションセンサーのセンサーレベルを合わせる場合に使用します。ご購入時の設定は、レベル2(MODEスイッチOFF)となっています。
メモ 「センサーレベル1」に設定した場合、異常感知10回までは、本警報(30秒警報)となり、11回目以降は、注意警報(5秒警報)となります。
- 4 OP2 センサーレベル
接続するオプションセンサーのセンサーレベルを合わせる場合に使用します。ご購入時の設定は、レベル3(MODEスイッチOFF)となっています。
- 5 車載ホーン配線
車載ホーン配線「する/しない」を設定する場合に使用します。MODEスイッチをONにすることで、ホーンに合わせた吹鳴を行います。詳細は、57~58ページの「車載ホーンへの配線方法(選択)」を確認して下さい。ご購入時の設定は、車載ホーン配線しない(MODEスイッチOFF)となっています。
メモ 下記①~③のいずれかに当てはまる車では、ホーン警報出来ません。付属のサイレンを使用して下さい。
① エンジンキーを抜いた状態でステアリングのホーンスイッチを押したとき、ホーンが鳴らない車。
② ON時間が0.25秒以下でホーンが鳴らない車。
③ 車両ホーン配線の⊕側コード(ホーンを鳴らしたとき+12Vとなるコード)が、ホーンを鳴らさないときにポティアーと導通してしまう車。(確認方法は、57ページに記載しています。)

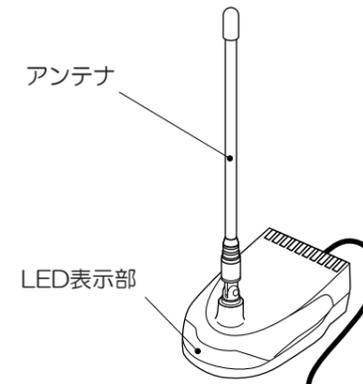
本体MODEスイッチの機能と設定(つづき)

- 6 動作確認音選択
警戒ON/OFF時の確認音「サイレン(ホーン)/ボイスモジュール」を変更する場合に使用します。ご購入時の設定は、サイレン(ホーン)(MODEスイッチOFF)となっています。
- 7 本警報 警報音選択
本警報時の警報音「サイレン(ホーン)/ボイスモジュール」を変更する場合に使用します。ご購入時の設定は、サイレン(ホーン)(MODEスイッチOFF)となっています。
重要 保安基準では、「本警報音=サイレン(あるいはホーン)」である必要があります。従ってボイスモジュール取り付け時であっても、必ずサイレン(あるいはホーン)の接続を行って下さい。また車検の際は、このMODEスイッチをOFFにして下さい。
- 8 注意警報 警報音選択
注意警報時の警報音「サイレン(ホーン)/ボイスモジュール」を変更する場合に使用します。ご購入時の設定は、サイレン(ホーン)(MODEスイッチOFF)となっています。
- 9 威嚇警報 警報音選択
威嚇警報時の警報音「サイレン(ホーン)/ボイスモジュール」を変更する場合に使用します。ご購入時の設定は、サイレン(ホーン)(MODEスイッチOFF)となっています。
- 10 リモコン登録
リモコンを登録する場合に使用します。MODEスイッチをONにすることで、リモコンの登録が出来ます。
メモ MODEスイッチがONの場合、リモコン登録以外の操作は出来ません。

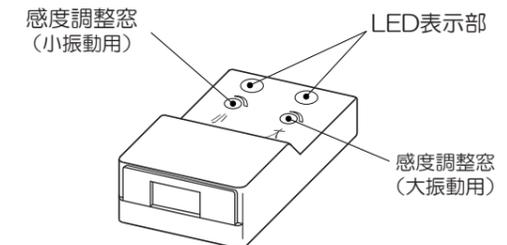
【MODE2スイッチ】

エンジンスターターキット(別売)を接続した場合に使用します。詳細は、エンジンスターターキット(別売)の取付・取扱説明書をご覧ください。なお、エンジンスターターキット(別売)を接続しない場合は、必ず全てのスイッチをOFFにして下さい。

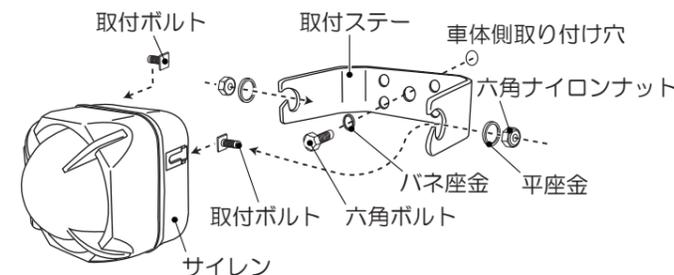
アンテナユニット



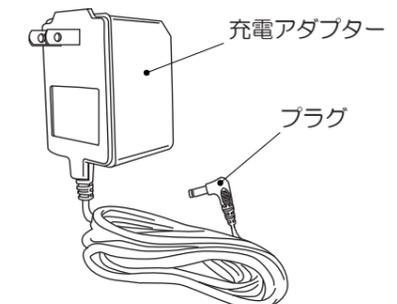
振動センサー



サイレン



リモコン充電アダプター



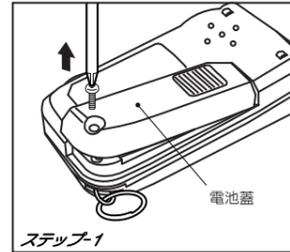
電池の挿入

ステップ 1 電池蓋を外します。

注意 電池蓋を外す際は、リモコン内部を損傷させないで下さい。故障の原因となります。

注意 電池蓋以外は外さないで下さい。

精密プラスドライバーでネジを外し、電池蓋を開けます。



ステップ1

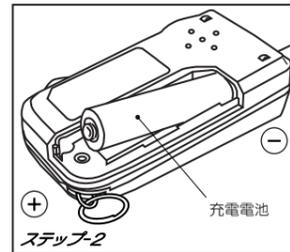
ステップ 2 電池を入れます。

危険 電池の⊕⊖の逆挿入は絶対にしないで下さい。電池が漏液・発熱・破裂し、故障の原因となります。

注意 ・リモコンの電池端子部をさわらないで下さい。
・電池表面に汚れや油分が付かないようにして下さい。
・雨や汗等の水分が浸入しないようにして下さい。

電池のプラス、マイナスの向きを注意して入れて下さい。(電池のプラス面がリモコンの底面側となります。)

電池は、当社指定のものを使用して下さい。
当社指定充電電池: Panasonic製 ニッケル水素電池 単4形 HHR-4MPS または HHR-4SPS



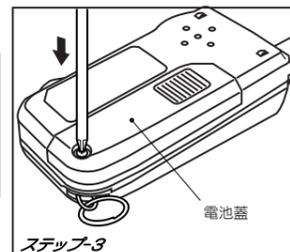
ステップ2

ステップ 3 電池蓋を閉じます。

警告 ・リモコンの電池を交換した際は、幼児の手の届かないところにおいて、早めに処分して下さい。万一飲み込んでしまった場合やもれた液をなめたりした場合は、すぐにうがいをし医師に相談して下さい。

注意 ・ネジを締めるときは、締めすぎたり、ゆるまないようきちんと締めて下さい。部品の損傷や紛失の原因となります。
・リモコンの内部を損傷させたり、異物を入れたりしないで下さい。故障の原因となります。

外したときと逆の手順で、電池蓋を閉じます。



ステップ3

リモコンを充電する

本品付属の充電アダプター(家庭用電源AC100V)でリモコンの充電が出来ます。充電は、アイコンの表示が1目盛(■)になったら、行って下さい。満充電まで最大約6時間かかります。アイコンが1目盛になった時点で、リモコンは低電圧モードとなります。詳細は、42ページの「リモコンのオートスリープ機能」を確認して下さい。また充電出来る電池は、当社指定のPanasonic製ニッケル水素電池(単4形 HHR-4MPS または HHR-4SPS)だけです。これ以外の電池は絶対に使用しないで下さい。

危険 ・電池の⊕⊖の逆挿入は絶対にしないで下さい。電池が漏液・発熱・破裂し、故障の原因となります。
・付属の充電アダプターで充電を行う前に、リモコンに装着された電池が、当社指定の充電電池であるか必ず確認して下さい。当社指定以外の充電電池および1次電池(アルカリ電池・マンガン電池等)を装着して充電を行うと、電池が漏液・発熱・破裂し、故障の原因となります。特に未使用の1次電池を充電した場合、漏液・発熱・破裂などの発生率が高くなります。

警告 ・本品付属の充電アダプター以外は絶対に使用しないで下さい。故障の原因となります。

注意 ・周囲の温度が充電に適さない場合、充電出来ません。(充電が可能な温度範囲は、5℃~35℃です。)
・充電異常を検知すると、液晶のバックライトが赤色に点灯し、電池残量アイコンも早い点滅となり、異常検知音が「ピピピ…」約4秒間鳴ります。このような場合は、リモコンからプラグを外し、原因を確認して下さい。
・電池が満充電の状態、再度充電を行うと、過充電となり電池寿命が短くなります。

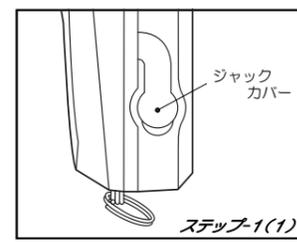
メモ ・充電中は、電源OFF操作を除き、リモコンの操作を行うことが出来ます。電源をOFFする場合は、リモコンからプラグを外して行って下さい。
・充電電池は消耗品です。充電を繰り返すことで、徐々に使用出来る時間が短くなります。約1年毎の交換をお奨めします。

ステップ 1 リモコンのジャックカバーを外し、充電アダプターのプラグを差し込み充電を開始します。

液晶画面 【リモコン】 充電開始音が鳴り、充電を開始します。(電源ON/OFF状態により充電開始音が異なります。)

メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】 ・バックライトが点灯し、消灯。
・■が点滅し、充電を開始したことを表示。



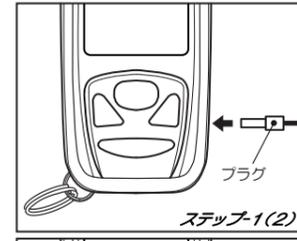
ステップ1(1)

ステップ 2 リモコンから充電完了音「ピピピ」が鳴り、充電が完了します。

液晶画面 【リモコン】 充電完了音「ピピピ」が鳴り、充電を完了したことをお知らせします。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

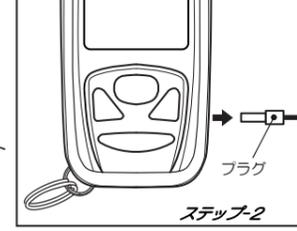
【液晶画面】 ■が点灯し、充電が完了したことを表示。



ステップ1(2)

ステップ 3 リモコンから充電アダプターのプラグを外します。

注意 リモコンから充電アダプターのプラグを外す前に、充電アダプターをコンセントから外すとリモコンが異常充電表示をする場合があります。この場合は、異常ではありません。



ステップ2

充電状態の表示について

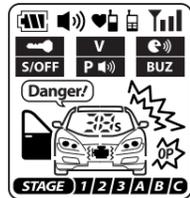
液晶画面の■アイコンで、リモコンの充電状態を確認することが出来ます。

アイコン表示	充電状態
■ 遅い点滅	充電中です。 正常に充電が行われています。
■ 早い点滅	異常です。 電池不良・1次電池装着・電池逆挿入・充電温度不適切等。但し、正常に充電を行った場合でも、充電電池の寿命が近づくとも電池の発熱量が多くなり、充電異常表示します。その際は、電池が異常に熱くなっていますので、やけどをしないよう注意して下さい。このような状態になった場合は、早めに充電電池の交換を行って下さい。
■ 点灯	正常に充電が完了しました。

電源の入れ方

ステップ 1 リモコンの **(RST)** ボタンを液晶画面が点灯するまで押し続けます。

液晶画面 【リモコン】電源ONと同時にブザー音が「パパッ」と鳴り、液晶画面が点灯します。



メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】

- ・バックライトが点灯(緑色)。
- ・アイコンが全て点灯。
- ・Tul が電波を送信していることをアニメーションで表示。

送信アニメーション表示
Tul → Tul → Tul

メモ リモコンの電源を入れると、車両の状態を確認するために、自動的に電波を送信します。

ステップ 2 リモコンからの電波を本体が受信し、リモコンへ車両の状態を送信します。このとき車両側は、受信したことを表示しません。

ステップ 3 本体からの電波をリモコンが受信すると「ピロリッ」と音が鳴り、車両の状態を液晶画面に表示します。

液晶画面 【リモコン】「ピロリッ」と鳴り、電波を受信したことをお知らせします。



メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】

- ・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。
- ・Tul が電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。

受信アニメーション表示
Tul → Tul → Tul

- ・33s が操作したリモコンNo.を表示し、消灯。
- ・本体の状態を表示。

メモ 通信が出来なかった場合は、33s でエラー内容を表示します。詳細は、37ページの「リモコンのエラー表示について」を確認して下さい。
・マナーモード時は、音を発しません。

電源の切り方

メモ 充電中は、電源をOFF出来ません。リモコンからプラグを外して行って下さい。

ステップ 1 リモコンの **(RST)** ボタンを液晶画面が消えるまで押し続けます。

液晶画面 【リモコン】電源OFFと同時に液晶画面が消灯します。



【液晶画面】

- ・バックライトが消灯。
- ・アイコンが全て消灯。

マナーモードの設定/解除

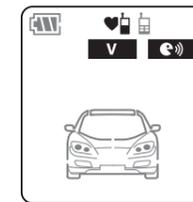
周囲に迷惑がかかる環境下で使用する場合にリモコンの操作音や通報音などを消音し、バイブレーションにて確認出来るようにします。バイブレーション動作については、「バイブレーション動作内容一覧」を確認して下さい。

メモ マナーモード時、リモコンが低電圧モード(電池残量1個点灯時)に入ると、バイブレーションの機能を停止します。この場合、液晶画面でしか確認することが出来ませんので、マナーモードを解除して使用して下さい。

マナーモードの設定

ステップ 1 リモコンの **(SET)** ボタンをバイブレーション動作「ブルルッ」するまで長押しします。

液晶画面 【リモコン】「プッ」と鳴り、バイブレーションが動作「ブルルッ」し、マナーモードに設定されたことをお知らせします。



【液晶画面】

- ・バックライトが点灯(緑色)し、消灯。
- ・V が点灯し、マナーモードに設定されたことを表示。
- ・BUZ が消灯。

メモ リモコン操作時のアンサーバック音または通報音をブザー音に設定している場合は、BUZ も消灯します。

以上でマナーモードの設定は、終了です。

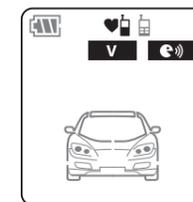
【バイブレーション動作内容一覧】

	バイブレーション動作
ボタン短押し時	ブルッ
ボタン長押し時	ブルルッ
ボタン同時長押し時	
ボタン操作無効エラー	ブルッ_ブルッ_ブルッ
リモコン操作時のアンサーバック受信時	ブルッ_ブルッ
異常感知通報受信時	ブル〜ッ…
警報履歴受信時	ブル〜ッ
通信エラー受信時	ブルッ_ブルッ_ブルッ
充電開始時	ブルッ
充電完了時	ブルッ_ブルッ_ブルッ
低電圧モード作動時	ブル〜ッ

マナーモードの解除

ステップ 1 リモコンの **(SET)** ボタンを押し、「ププッ」と2連音が鳴るまで長押しします。

液晶画面 【リモコン】「ププッ」と鳴り、マナーモードが解除されたことをお知らせします。



【液晶画面】

- ・バックライトが点灯(緑色)し、消灯。
- ・V が消灯し、マナーモードが解除されたことを表示。

メモ バイブレーションに設定している場合は、V は消灯しません。

- ・BUZ が点灯。

メモ リモコン操作時のアンサーバック音または通報音をブザー音に設定している場合は、BUZ も点灯します。

以上でマナーモードの解除は、終了です。

ボタン操作禁止の設定／解除

不用意なボタン操作を防止するため、リモコンのボタンをロックし、ボタン操作が出来ないようにすることが出来ます。リモコンが通報音を発している場合のみ、通報音と車両側の警報を(RST)ボタンで停止することが出来ます。

メモ リモコンが通報音を発しているときに、(RST)以外のボタンを操作すると、ミュート機能が働きリモコンの通報音が停止します。

ボタン操作禁止の設定

ステップ 1 リモコンの(STG)ボタンを「ピッ ピピッ」と音が鳴るまで長押しします。

液晶画面 【リモコン】「ピッ ピピッ」と鳴り、ボタン操作禁止に設定されたことをお知らせします。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】・バックライトが点灯(緑色)し、消灯。
・が消灯し、ボタン操作禁止に設定されたことを表示。



以上でボタン操作禁止の設定は、終了です。

ボタン操作禁止の解除

ステップ 1 リモコンの(STG)ボタンを「ピッ ピピッ」と音が鳴るまで長押しします。

液晶画面 【リモコン】「ピッ ピピッ」と鳴り、ボタン操作禁止が解除されたことをお知らせします。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】・バックライトが点灯(緑色)し、消灯。
・が点灯し、ボタン操作禁止が解除されたことを表示。



以上でボタン操作禁止の解除は、終了です。

警報機を動作させる(警戒ON)

メモ ・ドアロックハーネスを接続することにより、リモコンの警戒ON操作に連動してドアの施錠が行えるようになります。
・エンジン駆動中は、警戒ON操作出来ません。操作した場合、「本体受付エラー(Eと3が交互に表示)」がリモコン液晶部に表示されます。

注意 エンジンキーを車室内に放置せず、携帯した状態で操作して下さい。

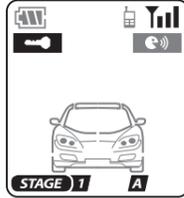
ステップ 1 車を降りて、全てのドアを閉めます。

ステップ 2 リモコンの(SET)ボタンを「ブツ」と音が鳴るまで押します。

液晶画面 【リモコン】「ブツ」と鳴り、警戒ON操作したことをお知らせします。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

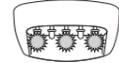
【液晶画面】・バックライトが点灯(緑色)。
・**STAGE 1** が点灯し、が現在の警戒パターンを点滅で表示。
・が点滅し、ドアを施錠することを表示。
(ドアロックハーネスの配線有無に関係なく、リモコンの操作状態を表示します。) 送信アニメーション表示
・が電波を送信していることをアニメーションで表示。



メモ ご購入時に登録されている警戒パターンは、「警戒ステージ1_警戒モードA」となっています。使用環境に合わせて警戒パターンを変更することが出来ます。詳細は、23~24ページの「警報機の警戒パターンを変更し、動作させる」・25ページの「使用頻度の高い警戒パターンを登録する」を確認して下さい。

ステップ 3 リモコンからの電波を本体が受信し、警報機がスタンバイモードに入ります。

警戒ステージ1でスタンバイモードに入ったときの車両側表示は、下表の通りです。

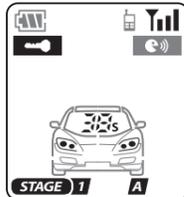
警戒設定	アンテナユニット	サイレン	ハザード	ドア (配線時のみ)	ホーン (選択)	オプション(別売)	
						スキャンングLED	ボイスモジュール
警戒ステージ1	 LED-1ヶ(緑色)が1回点灯	クックク	2回点滅 (配線時のみ)	施錠 (配線時のみ)	1回吹鳴	 LED-3ヶが点滅	【日本語】 ノーマルステージで警戒開始します。 【英語】 Security system stand by on normal stage.

ステップ 4 本体からの電波をリモコンが受信すると「警戒を開始しました。」と発声します。

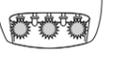
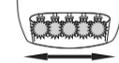
メモ ・スタンバイモード時は、全てのセンサーが働きません。
・スタンバイモード時間は、30秒/5秒の設定が出来ます。詳細は、14ページの2「スタンバイモードの時間切替」を確認して下さい。ご購入時は、30秒に設定されています。

液晶画面 【リモコン】「警戒を開始しました。」と発声し、警報機がスタンバイモードに入ったことをお知らせします。

【液晶画面】・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。
・警戒パターン **STAGE 1** が点滅から点灯へ変化し、スタンバイモードに入ったことを表示。
・が点滅から点灯へ変化し、ドアを施錠したことを表示。
(ドアロックハーネスの配線有無に関係なく、リモコンの操作状態を表示します。)
・が電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。
・が操作したリモコンNo.を表示し、消灯。
・が点灯からアニメーション表示へ変化し、警報機が動作していることを表示。



ステップ 5 スタンバイモードが終了すると、自動的に監視モードへ移行します。

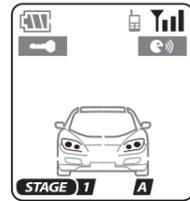
アンテナユニット		スキャンングLED(別売)	
スタンバイモード時  LED-1ヶ(緑色)が点滅	→	監視モード時  LED-2ヶ(赤色)が点滅	
			スタンバイモード時  LED-3ヶが点滅
			→
			監視モード時  スキャンング点滅開始

警報機を停止させる(警戒OFF)

メモ ドアロックハーネスを接続することにより、リモコンの警戒OFF操作に連動してドアの解錠が行えるようになります。

ステップ 1 リモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。

液晶画面 【リモコン】「パッ」と鳴り、警戒OFF操作したことをお知らせします。



メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】・バックライトが点灯(緑色)。

- ・STAGE 1 A が消灯し、警戒OFF操作したことを表示。
- ・Til が電波を送信していることをアニメーションで表示。
- ・👁️ がアニメーション表示から点灯へ変化し、警報機の停止操作をしたことを表示。

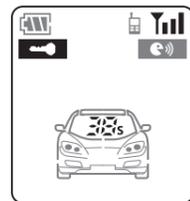
ステップ 2 リモコンからの電波を本体が受信し、警報機が停止します。警報機が停止したときの車両側表示は、下表の通りです。

警報履歴	アンテナユニット	サイレン	ハザード	ドア	ホーン(選択)	オプション(別売)	
						スキャンングLED	ボイスモジュール
履歴がなかった場合	LED-1ヶ(緑色)が1回点灯	クツ	1回点滅(配線時のみ)		1回吹鳴	LED-1ヶが点滅	【日本語】警戒解除します。 【英語】Security system stopped.
本警報があった場合				解錠(配線時のみ)	2回吹鳴	LED-4ヶが15秒間点滅	【日本語】警戒解除します。警戒中に警戒ランクSに達しました。 【英語】Security system stopped. Check the car.
注意警報があった場合	LED-2ヶ(赤色)が1回点灯	クツクツクツ	3回点滅(配線時のみ)			LED-3ヶが15秒間点滅	【日本語】警戒解除します。警戒中に警戒ランクAに達しました。 【英語】Security system stopped. Check the car.
威嚇警報があった場合						LED-2ヶが15秒間点滅	【日本語】警戒解除します。警戒中に警戒ランクBに達しました。 【英語】Security system stopped. Check the car.

ステップ 3 本体からの電波をリモコンが受信すると「警戒を解除しました。」と発声します。

履歴がなかった場合

液晶画面



【リモコン】「警戒を解除しました。」と発声し、警報機が停止したことをお知らせします。

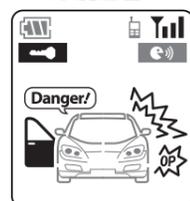
メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。

- ・👁️ が消灯し、ドアを解除したことを表示。(ドアロックハーネスの配線有無に関係なく、リモコンの操作状態を表示します。)
- ・Til が電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。
- ・📶 が操作したリモコンNo.を表示し、消灯。

履歴があった場合

液晶画面



【リモコン】「警戒を解除しました。」と発声し、警報機が停止したことをお知らせします。その後「履歴があります。」と発声します。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。

- ・👁️ が消灯し、ドアを解錠したことを表示。(ドアロックハーネスの配線有無に関係なく、リモコンの操作状態を表示します。)
- ・Til が電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。
- ・Danger! が消灯。
- ・感知したセンサー(👁️ 📶)が点滅表示し、消灯。

3警戒ステージ×3警報モードについて

3警戒ステージ×3警報モードとは

どんな環境下においても安心してお使い頂けるよう、警戒の異なる3つのステージと警報の異なる3つのモードを準備し、その組み合わせにより合計9つの警戒パターンを設定出来るようにしました。それぞれの特徴をよく理解して頂き、使用する環境に最適と思われる警戒パターンでご使用下さい。

■警戒ステージ1

外乱振動の少ない環境下で使用する場合に設定します。このステージは、全てのセンサーで警戒を行います。

■警戒ステージ2

線路付近や交通量の多い幹線道路沿いなど、外乱振動の発生があらかじめ予測出来るような場所で使用する場合に設定します。振動センサーの「小振動」およびオプションセンサー「レベル3」(別売)以外のセンサーで警戒を行います。

■警戒ステージ3

「警戒ステージ2」よりも、さらに外乱振動が多発するような場所(機械式駐車場等)で使用する場合に設定します。このステージは、誤動作の少ないドアスイッチセンサーおよびオプションセンサー「レベル1」(別売)で警戒を行います。

●警報モードA

感知したセンサーが、通常の警報(30秒/5秒/1秒)を行う設定です。

●警報モードB

「近所迷惑が気になるので、警報を長時間鳴らしたくない。」という場合に設定します。ドアスイッチセンサー以外の警報は、全て1秒警報となります。(ドアスイッチセンサーのみ30秒警報)

●警報モードC

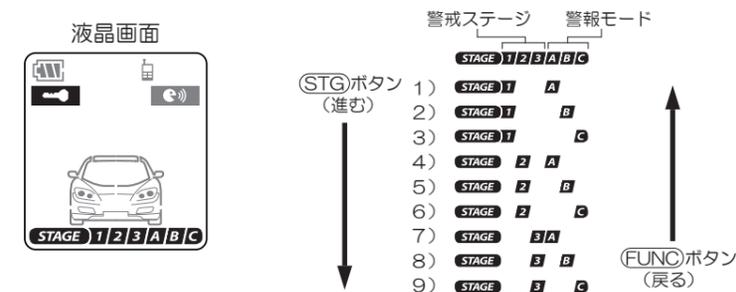
「近所迷惑が気になるので、警報を鳴らしたくない。」という場合に設定します。ドアスイッチセンサー以外の警報はサイレンで行いません。(ドアスイッチセンサーのみサイレン作動)

警報機の警戒パターンを変更し、動作させる

ステップ 1 リモコンの(STG)ボタンを押します。

(STG)ボタンを押す音「ピッ」に合わせて液晶画面表示が下表のように変化します。

メモ マナーモード時は、音を発しません。



ステップ 2 警戒パターンを選択します。

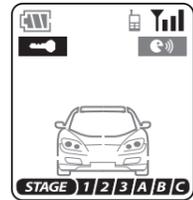
(STG)ボタンを押し、お好みの警戒パターンを点滅表示させて下さい。

警報機の警戒パターンを変更し、動作させる(つづき)

ステップ 3 警戒パターンが点滅している状態で、リモコンの(SET)ボタンを「プッ」と音が鳴るまで押します。

メモ 操作の途中でバックライトが消灯した場合は、もう一度ステップ1からやり直して下さい。

液晶画面 【リモコン】「プッ」と鳴り、警戒ON操作したことをお知らせします。



メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】・123ABCが現在の警戒パターンを点滅で表示。
 ・LEDが点滅し、ドアを施錠することを表示。
 (ドアロックハーネスの配線有無に関係なく、リモコンの操作状態を表示します。)
 ・Tilが電波を送信していることをアニメーションで表示。
送信アニメーション表示



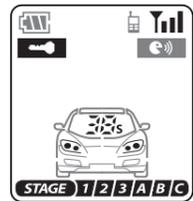
ステップ 4 リモコンからの電波を本体が受信し、警報機がスタンバイモードに入ります。スタンバイモードに入ったときの車両側表示は、下表の通りです。

警戒設定	アンテナユニット	サイレン	ハザード	ドア	ホーン(選択)	オプション(別売)	
						スキャンングLED	ボイスモジュール
警戒ステージ1		クックク	2回点滅(配線時のみ)	施錠配線時のみ	1回吹鳴		【日本語】 ノーマルステージで警戒開始します。 【英語】 Security system stand by on normal stage.
警戒ステージ2							【日本語】 誤動作軽減ステージで警戒開始します。 【英語】 On "GODOUSAKEIGEN" stage.
警戒ステージ3							【日本語】 ドアスイッチステージで警戒開始します。 【英語】 On door switch stage.

ステップ 5 本体からの電波をリモコンが受信すると「警戒を開始しました。」と発声します。

メモ ・スタンバイモード時は、全てのセンサーは動きません。
 ・スタンバイモード時間は、30秒/5秒の設定が出来ます。詳細は、14ページの2「スタンバイモードの時間切替」を確認して下さい。ご購入時は、30秒に設定されています。

液晶画面 【リモコン】「警戒を開始しました。」と発声し、警報機がスタンバイモードに入ったことをお知らせします。



【液晶画面】・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。
 ・警戒パターン(123ABC)が点滅から点灯へ変化し、スタンバイモードに入ったことを表示。
 ・LEDが点滅から点灯へ変化し、ドアを施錠したことを表示。
 (ドアロックハーネスの配線有無に関係なく、リモコンの操作状態を表示します。)
 ・Tilが電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。
受信アニメーション表示
 ・Tilが操作したリモコンNo.を表示し、消灯。
 ・LEDが点灯からアニメーション表示へ変化し、警報機が動作していることを表示。

ステップ 6 スタンバイモードが終了すると、自動的に監視モードへ移行します。

アンテナユニット		スキャンングLED(別売)	
スタンバイモード時	監視モード時	スタンバイモード時	監視モード時
		ステップ4の点滅パターンでLEDが点滅	

使用頻度の高い警戒パターンを登録する

日常良く使用する警戒パターンをリモコンに登録することが出来ます。この登録を行うと、警戒パターンを都度選択することなく、一度の(SET)ボタン操作で、希望するパターンの警戒を開始することが出来ます。ご購入時に登録されている警戒パターンは、「警戒ステージ1_警戒モードA」となっています。

重要 保安基準では(SET)ボタンを押したとき、全センサーが作動しなくてはなりません。車検に出す際は、「警戒ステージ1」(警戒モードはA~Cのいずれでも可)をリモコンに登録しておいて下さい。

ステップ 1 リモコンの(STG)ボタンを押します。

(STG)ボタンを押す音「ピッ」に合わせて液晶画面表示が下表のように変化します。

メモ マナーモード時は、音を発しません。



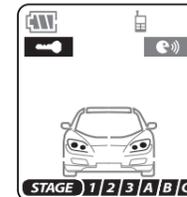
ステップ 2 警戒パターンを選択します。

(STG)ボタンを押し、希望する警戒パターンを点滅表示させて下さい。

ステップ 3 警戒パターンが点滅している状態で、リモコンの(SET)ボタンを「プッ プッ」と音が鳴るまで長押しします。

メモ 操作の途中でバックライトが消灯した場合は、もう一度ステップ1からやり直して下さい。

液晶画面 【リモコン】「プッ プッ」と鳴り、警戒パターンを登録したことをお知らせします。



メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】・バックライトは登録が終了するまで点灯し、消灯。
 ・123ABCが点滅から点灯へ変化し、警戒パターンを登録したことを表示し、消灯。
 ・LEDが点滅から点灯へ変化し、警戒パターンを登録したことを表示。

異常を感知したときの通報内容一覧

異常を感知したときのリモコンへの通報は、下表の通りです。警戒パターン別に記載しています。

		本警報		注意警報	威嚇警報
		・ドアスイッチセンサー	・オプションセンサー「レベル1」(別売)	・振動センサー(大振動) ・オプションセンサー「レベル2」(別売)	・振動センサー(小振動) ・オプションセンサー「レベル3」(別売)
STAGE 1 A	液晶画面表示	 LEDが点灯。	 LEDが点灯。	 LEDが点灯。	 LEDが点灯。
	バックライト表示	赤色点灯		橙色点灯	黄色点灯
	音声通報	「侵入を感知しました…」(30秒)	「異常を感知しました…」(30秒)	「異常を感知しました…」または「衝撃を感知しました…」(10秒)	「異常を感知しました…」または「衝撃を感知しました…」(5秒)
	ブザー音通報	「ピロ…」(30秒)		「ピロ…」(10秒)	「ピロ…」(5秒)
パイプレーション動作		「ブル〜ブル…」(30秒)		「ブル〜ブル…」(10秒)	「ブル〜ブル…」(5秒)
STAGE 1 B	液晶画面表示	 LEDが点灯。	 LEDが点灯。	 LEDが点灯。	 LEDが点灯。
	バックライト表示	赤色点灯		橙色点灯	黄色点灯
	音声通報	「侵入を感知しました…」(30秒)	「異常を感知しました…」(5秒)	「異常を感知しました…」または「衝撃を感知しました…」(5秒)	
	ブザー音通報	「ピロ…」(30秒)		「ピロ…」(5秒)	
パイプレーション動作		「ブル〜ブル…」(30秒)		「ブル〜ブル…」(5秒)	

異常を感知したときの警報内容一覧(つづき)

異常を感知したときの車両側の警報は、下表の通りです。警戒パターン別に記載しています。

		本警報		注意警報	威嚇警報
		・ドアスイッチセンサー	・オプションセンサー「レベル1」	・振動センサー(大振動) ・オプションセンサー「レベル2」	・振動センサー(小振動) ・オプションセンサー「レベル3」
STAGE 2 A	アンテナユニット	 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(30秒)		 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(5秒)	—
	サイレン	30秒連続吹鳴		5秒断続吹鳴	—
	ハザード	30秒点滅		5秒点滅	—
	ホーン(選択)	30秒断続吹鳴		5秒断続吹鳴	—
	スキャンングLED(別売)	 LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(30秒)		 LED-3ヶが高速スキャンと高速点滅(5秒)	—
ボイスモジュール(別売)	<日本語> 非常事態発令!(30秒) <英語> Emergency!(30秒)		<日本語> 警告します!(2回) <英語> Warning!(2回)	—	
STAGE 2 B	アンテナユニット	 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(30秒)	 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(1秒)	—	—
	サイレン	30秒連続吹鳴	1秒断続吹鳴	—	—
	ハザード	30秒点滅	2回点滅	—	—
	ホーン(選択)	30秒断続吹鳴	2回吹鳴	—	—
	スキャンングLED(別売)	 LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(30秒)	 LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(1秒)	 LED-3ヶが高速スキャンと高速点滅(1秒)	—
ボイスモジュール(別売)	<日本語> 非常事態発令!(30秒) <英語> Emergency!(30秒)	<日本語> 非常事態発令!(4回) <英語> Emergency!(4回)	<日本語> 警告します!(2回) <英語> Warning!(2回)	—	
STAGE 2 C	アンテナユニット	 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(30秒)		 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(5秒)	—
	サイレン	30秒連続吹鳴	—	—	—
	ハザード	30秒点滅		5秒点滅	—
	ホーン(選択)	30秒断続吹鳴	—	—	—
	スキャンングLED(別売)	 LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(30秒)		 LED-3ヶが高速スキャンと高速点滅(5秒)	—
ボイスモジュール(別売)	<日本語> 非常事態発令!(30秒) <英語> Emergency!(30秒)	—	—	—	

操作方法

異常を感知したときの警報内容一覧(つづき)

異常を感知したときの車両側の警報は、下表の通りです。警戒パターン別に記載しています。

		本警報		注意警報	威嚇警報
		・ドアスイッチセンサー	・オプションセンサー「レベル1」	・振動センサー(大振動) ・オプションセンサー「レベル2」	・振動センサー(小振動) ・オプションセンサー「レベル3」
STAGE 3 A	アンテナユニット	 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(30秒)		—	—
	サイレン	30秒連続吹鳴		—	—
	ハザード	30秒点滅		—	—
	ホーン(選択)	30秒断続吹鳴		—	—
	スキャンングLED(別売)	 LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(30秒)		—	—
ボイスモジュール(別売)	<日本語> 非常事態発令!(30秒) <英語> Emergency!(30秒)		—	—	
STAGE 3 B	アンテナユニット	 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(30秒)	 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(1秒)	—	—
	サイレン	30秒連続吹鳴	1秒断続吹鳴	—	—
	ハザード	30秒点滅	2回点滅	—	—
	ホーン(選択)	30秒断続吹鳴	2回吹鳴	—	—
	スキャンングLED(別売)	 LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(30秒)	 LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(1秒)	—	—
ボイスモジュール(別売)	<日本語> 非常事態発令!(30秒) <英語> Emergency!(30秒)	<日本語> 非常事態発令!(4回) <英語> Emergency!(4回)	—	—	
STAGE 3 C	アンテナユニット	 LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(30秒)		—	—
	サイレン	30秒連続吹鳴	—	—	—
	ハザード	30秒点滅		—	—
	ホーン(選択)	30秒断続吹鳴	—	—	—
	スキャンングLED(別売)	 LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(30秒)		—	—
ボイスモジュール(別売)	<日本語> 非常事態発令!(30秒) <英語> Emergency!(30秒)	—	—	—	

操作方法

車両側の警報を停止させる

この操作を行うことで、車両の警報を途中で停止することが出来ます。この操作は、車両の警報のみを停止し、警報機は警戒動作を継続します。

- メモ** ・ボタン操作禁止が設定されている場合でも、警報停止操作を行うことが出来ます。
- ・この操作でリモコンの通報音も停止します。
- ・バックライト点灯中(赤色)は、リモコンのボタン操作を受け付けません。
- ・この操作を行うと、ボタン操作時の警報履歴を通知しません。

ステップ 1 リモコンの異常感知通報中に(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。

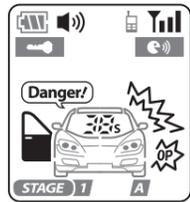
リモコンが「パッ」と鳴り、通報音が停止します。

- メモ** マナーモード時は、音を発しません。

ステップ 2 リモコンからの電波を本体が受信し、車両側の警報を停止します。

ステップ 3 本体からの電波をリモコンが受信すると「警報を停止しました。」を発声します。

液晶画面 【リモコン】「警報を停止しました。」と発声し、車両側の警報が停止したことをお知らせします。



- メモ** マナーモード時は、音を発しません。
- 【液晶画面】 ・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。
- ・音が消え、警報を停止したことを表示。
- ・「Danger!」が点滅から点灯へ変化し、警報履歴があることを表示。
- ・Tulがアニメーション表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。



- メモ** ボイスモジュール(別売)とオプションセンサー「レベル1」を接続し、本警報をボイスモジュールに設定している場合に限り、オプションセンサー「レベル1」が感知して警報を発しているときにドアスイッチセンサーが感知して連続警報を行った場合、ボイスモジュールの警報のみ途中で停止出来ない場合があります。このような場合は、警報が終了するまで待って下さい。

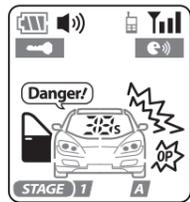
リモコンの通報音のみ停止させる(ミュート機能)

この操作を行うことで、リモコンの通報音のみ途中で停止することが出来ます。この操作は、リモコンの通報音のみ停止し、車両側は継続して警報を行います。

- メモ** ・ボタン操作禁止が設定されている場合でも、通報音停止操作を行うことが出来ます。
- ・この操作を行うと、ボタン操作時の警報履歴を通知しません。

ステップ 1 通報中に(SET) (STG) (FUNC) のいずれかのボタンを音がするまで押します。

液晶画面 【リモコン】ボタン操作音が鳴り、通報音が停止します。



- メモ** マナーモード時は、音を発しません。
- 【液晶画面】 ・バックライト、音が鳴るまでは通報時間が経過するまで点灯し、消灯。
- ・「Danger!」は通報時間が経過するまで点滅し、点灯。警報履歴があったことを表示。
- ・音が鳴るまでは通報時間が経過するまで点滅し、消灯。
- ・Tulは通報時間が経過するまでアニメーション表示し、消灯。



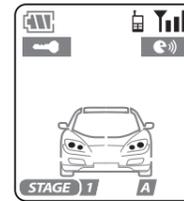
警報履歴を確認する

この操作を行うことで、警報機の警報履歴を確認することが出来ます。

- メモ** この操作を行わなくても、定期通信(約3分に一度)により、警報機の警報履歴がリモコンへ送られてきます。

ステップ 1 リモコンの(FUNC)ボタンを「ポッ ポポッ」と音が鳴るまで長押しします。

液晶画面



【リモコン】「ポッ ポポッ」と鳴り、警報履歴の確認を開始したことをお知らせします。

- メモ** マナーモード時は、音を発しません。

- 【液晶画面】 ・バックライトが点灯(緑色)。
- ・Tulが点滅し、警報履歴の確認を開始したことを表示。
- ・Tulが電波を送信していることをアニメーションで表示。



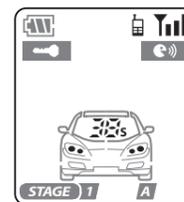
- ・Tulがアニメーション表示から点灯表示へ変化。

ステップ 2 リモコンからの電波を本体が受信し、リモコンへ警報履歴を送信します。このとき車両側は、受信したことを表示しません。

ステップ 3 本体からの電波をリモコンが受信すると「ピロリッ」と鳴り、警報履歴をお知らせします。

履歴がなかった場合

液晶画面



【リモコン】「ピロリッ」と鳴り、警報履歴を確認したことをお知らせし、終了します。

- メモ** マナーモード時は、音を発しません。

- 【液晶画面】 ・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。
- ・Tulが点滅から点灯へ変化し、本体の警報履歴を確認したことを表示。
- ・Tulが電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。



- ・Tulが操作したリモコンNo.を表示し、消灯。
- ・Tulが点灯からアニメーションへ変化し、警報機が継続動作していることを表示。

履歴があった場合

液晶画面



【リモコン】「ピロリッ」と鳴り、警報履歴を確認したことをお知らせし、その後「履歴があります。」と発声します。

- メモ** マナーモード時は、音を発しません。

- 【液晶画面】 ・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。
- ・Tulが点滅から点灯へ変化し、本体の警報履歴を確認したことを表示。
- ・Tulが電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。



- ・異常を感知したアイコンを点滅表示し、消灯。
- ・「Danger!」が点灯し、警報履歴があったことを表示。

- メモ** 「Danger!」は、通報を受信した時点で表示されます。

- ・感知したセンサー(音が鳴るまでは通報時間が経過するまで点滅し、消灯)が点滅表示し、消灯。
- ・Tulが点灯からアニメーションへ変化し、警報機が継続動作していることを表示。

カーファインドを動作させる

カーファインドとは、警報機の動作有無に関係なく強制的にサイレンとハザードを2秒間動作させることが出来る機能です。広い駐車場などで車両の位置を確認する場合に使用します。

ステップ 1 リモコンの(FUNC)ボタンを押します。

(FUNC)ボタンを押す音「ポッ」に合わせて液晶画面表示が下表のように変化します。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

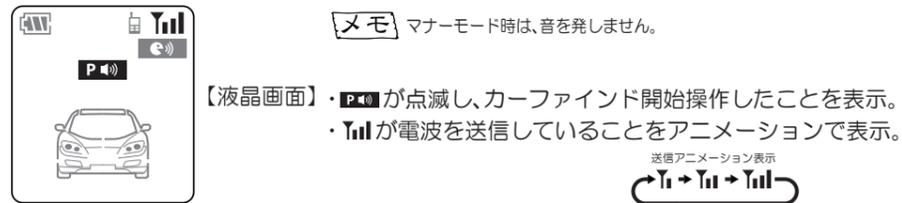


ステップ 2 Pを点滅表示させます。

ステップ 3 Pが点滅している状態で、リモコンの(SET)ボタンを「プッ」と音が鳴るまで押します。

メモ 操作の途中でバックライトが消灯した場合は、もう一度ステップ1からやり直して下さい。

液晶画面 【リモコン】「プッ」と鳴り、カーファインド開始操作をしたことをお知らせします。



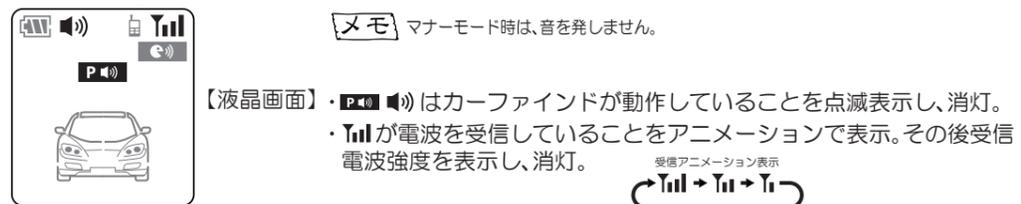
ステップ 4 リモコンからの電波を本体が受信し、車両側のサイレンとハザードが動作します。

カーファインド動作時の車両側表示は、下表の通りです。

サイレン	ハザード	ホーン(選択)
2秒断続吹鳴	4回点滅 (配線時のみ)	4回断続吹鳴

ステップ 5 本体からの電波をリモコンが受信すると、「ピロリッ」と音が鳴ります。

液晶画面 【リモコン】「ピロリッ」と鳴り、カーファインドが動作したことをお知らせします。

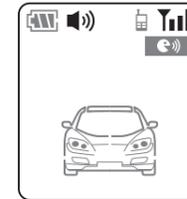


パニックアラームを動作させる

パニックアラームとは、警報機の動作有無に関係なく強制的に警報を30秒間鳴らすことが出来る機能です。不審者が車に近づいたときなど、強制的に警報を発したい場合に使用します。

ステップ 1 リモコンの(STG)ボタンと(FUNC)ボタンを同時に「ピッ ポポポッ」と鳴るまで長押しします。

液晶画面 【リモコン】「ピッ ポポポッ」と鳴り、パニックアラームの開始操作をしたことをお知らせします。



メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】・バックライトが点灯(緑色)。
・Pが点滅し、パニックアラームを動作させることを表示。
・Tilが電波を送信していることをアニメーションで表示。



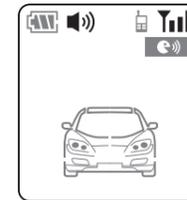
ステップ 2 リモコンからの電波を本体が受信し、車両側の警報を開始します。

パニックアラーム動作時の車両側表示は、下表の通りです。

アンテナユニット	サイレン	ハザード	ホーン(選択)	オプション(別売)	
				スキャンングLED	ボイスモジュール
LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(30秒間)	30秒連続吹鳴	30秒点滅(配線時のみ)	30秒断続吹鳴	LED-4ヶが高速スキャンと高速点滅(30秒)	【日本語】 非常事態発令!(約30秒) 【英語】 Emergency!(約30秒)

ステップ 3 本体からの電波をリモコンが受信すると「警報を開始しました。」と発声します。

液晶画面 【リモコン】「警報を開始しました。」と発声し、パニックアラームが動作したことをお知らせします。



メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】・バックライトが緑色から赤色へ変化。パニックアラームが停止するまで点灯し、消灯。
・Pはパニックアラームが動作していることを点滅表示し、消灯。
・Tilが電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。

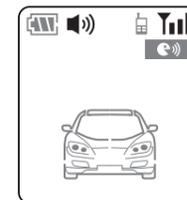


パニックアラームを停止させる

パニックアラームを動作させたリモコンでのみ、パニックアラーム警報を途中で停止することが出来ます。

ステップ 1 リモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。

液晶画面 【リモコン】「パッ」と鳴り、パニックアラームの停止操作をしたことをお知らせします。



メモ マナーモード時は、音を発しません。

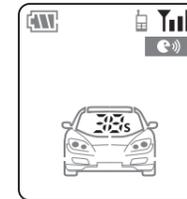
【液晶画面】・バックライトが赤色から緑色へ変化。
・Pが消灯し、パニックアラームの停止操作したことを表示。
・Tilが電波を送信していることをアニメーションで表示。



ステップ 2 リモコンからの電波を本体が受信し、パニックアラームを停止します。

ステップ 3 本体からの電波をリモコンが受信すると「警報を停止しました。」と発声します。

液晶画面 【リモコン】「警報を停止しました。」と発声し、パニックアラームが停止したことをお知らせします。



メモ マナーモード時は、音を発しません。

【液晶画面】・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。
・No.が表示したリモコンNo.を表示し、消灯。
・Tilが電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。

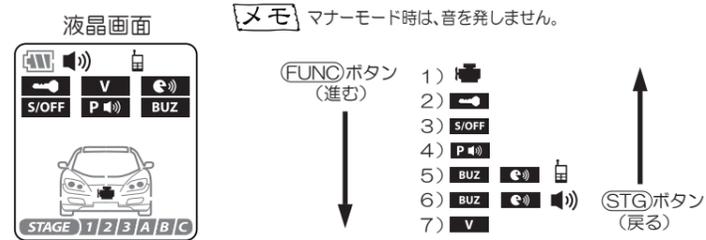


警報機のみ停止する

ドアロックハーネスを接続している場合の操作です。ドアを施錠しないで警報機を途中で停止したい場合に使用します。

ステップ 1 リモコンの(FUNC)ボタンを押します。

(FUNC)ボタンを押す音「ポッ」に合わせて液晶画面表示が下表のように変化します。

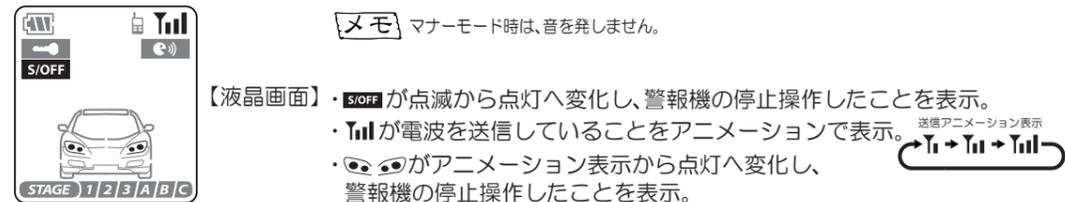


ステップ 2 (S/OFF)を点滅表示させます。

ステップ 3 (S/OFF)が点滅している状態で、リモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。

メモ 操作の途中でバックライトが消灯した場合は、もう一度ステップ1からやり直して下さい。

液晶画面 【リモコン】「パッ」と鳴り、警報機の停止操作をしたことをお知らせします。



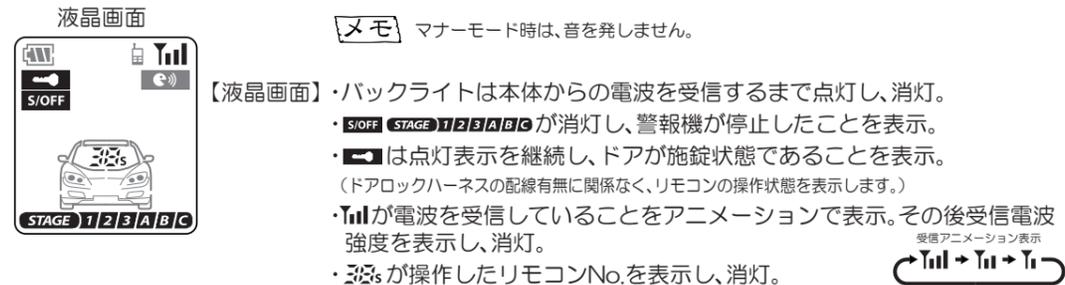
ステップ 4 リモコンからの電波を本体が受信し、警報機が停止します。

警報機が停止したときの車両側表示は、22ページの「警報機を停止させる ステップ2」を確認して下さい。

ステップ 5 本体からの電波をリモコンが受信すると「警戒を解除しました。」と発声します。

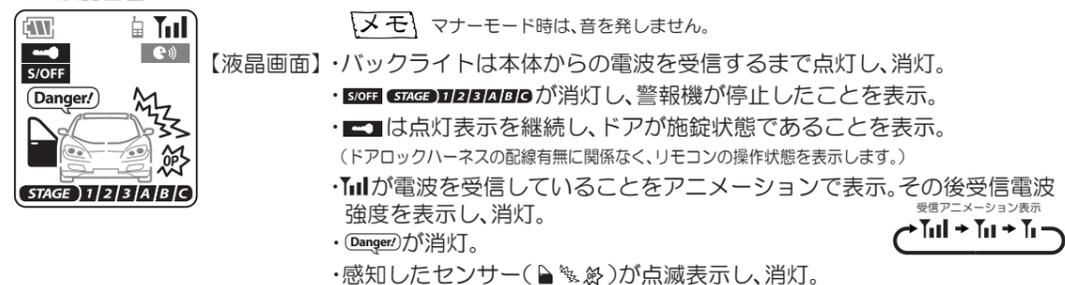
履歴がなかった場合

【リモコン】「警戒を解除しました。」と発声し、警報機が停止したことをお知らせします。



履歴があった場合

【リモコン】「警戒を解除しました。」と発声し、警報機が停止したことをお知らせします。その後「履歴があります。」と発声します。



ドアのみ施錠する

ドアロックハーネスを接続している場合の操作です。警報機を動作させないでドアを施錠する場合に使用します。

ステップ 1 リモコンの(FUNC)ボタンを押します。

(FUNC)ボタンを押す音「ポッ」に合わせて液晶画面表示が下表のように変化します。

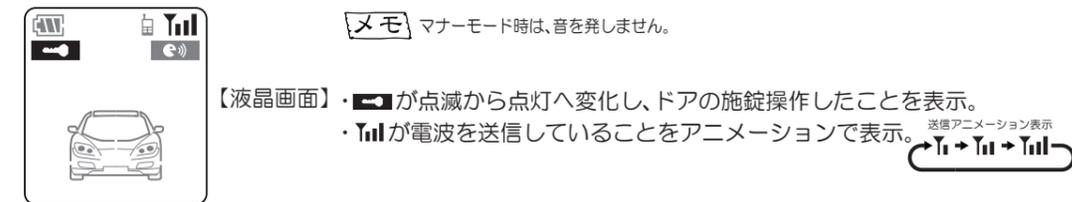


ステップ 2 (S/OFF)を点滅表示させます。

ステップ 3 (S/OFF)が点滅している状態で、リモコンの(SET)ボタンを「プッ」と音が鳴るまで押します。

メモ 操作の途中でバックライトが消灯した場合は、もう一度ステップ1からやり直して下さい。

液晶画面 【リモコン】「プッ」と鳴り、ドアの施錠操作をしたことをお知らせします。



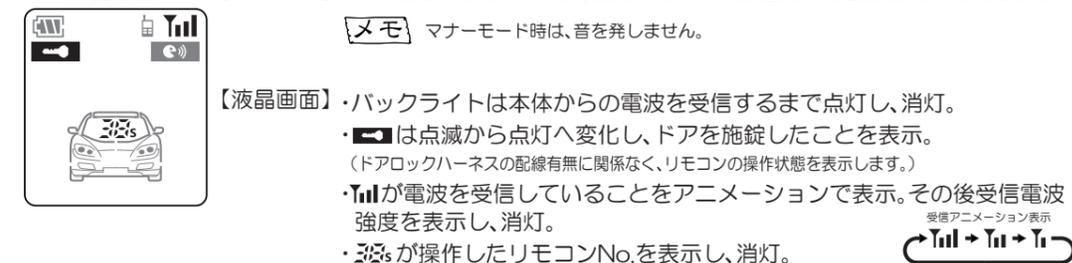
ステップ 4 リモコンからの電波を本体が受信し、ドアを施錠します。

ドアを施錠したときの車両側表示は、下表の通りです。

サイレン	ハザード	ホーン(選択)
クツ	2回点滅(配線時のみ)	1回吹鳴

ステップ 5 本体からの電波をリモコンが受信すると「ドアをロックしました。」と発声します。

液晶画面 【リモコン】「ドアをロックしました。」と発声し、ドアを施錠したことをお知らせします。



ドアを解錠する

警報機を動作させないでドアを施錠した場合(35ページの操作)の解錠操作です。

ステップ 1 リモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。

液晶画面 【リモコン】「パッ」と鳴り、ドアの解錠操作をしたことをお知らせします。

【液晶画面】・バックライトが点灯(緑色)。
・YIIが電波を送信していることをアニメーションで表示。

送信アニメーション表示
YII → YII → YII

メモ マナーモード時は、音を発生しません。

ステップ 2 リモコンからの電波を本体が受信し、ドアを解錠します。

ドアを解錠したときの車両側表示は、下表の通りです。

サイレン	ハザード	ホーン(選択)
クツ	1回点滅(配線時のみ)	1回吹鳴

ステップ 3 本体からの電波をリモコンが受信すると「ドアロックを解除しました。」と発声します。

液晶画面 【リモコン】「ドアロックを解除しました。」と発声し、ドアを解錠したことをお知らせします。

【液晶画面】・バックライトは本体からの電波を受信するまで点灯し、消灯。
・YIIが消灯し、ドアを解錠したことを表示。
(ドアロックハーネスの配線有無に関係なく、リモコンの操作状態を表示します。)
・YIIが電波を受信していることをアニメーションで表示。その後受信電波強度を表示し、消灯。
・YIIが操作したリモコンNo.を表示し、消灯。

受信アニメーション表示
YII → YII → YII

メモ マナーモード時は、音を発生しません。

リモコンのエラー表示について

リモコンのエラー表示は、下表の通りです。指示に従って対処して下さい。

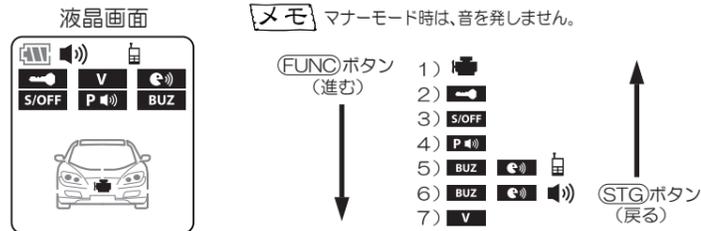
		エラー表示	対処
キャリアアクセスエラー	液晶画面	とが交互に点滅表示。 	近くで同じ周波数(429MHz帯)が使用されています。しばらくしてから、もう一度操作して下さい。
	エラー音	「ブブブブッ」	
	バイブレーション動作	「ブルッ_ブルッ_ブルッ」	
通信エラー	液晶画面	とが交互に点滅表示。 	リモコンと本体の通信が出来ていません。 ・車に近づいて操作してみてください。 ・電源配線(赤コード、黒コード)が確実に接続されているか確認して下さい。 ・IG線(黄コード)が確実に接続されているか確認して下さい。 IG線(黄コード)が未接続あるいは車両のアース線に接続されていると、本体は常時エンジン停止状態と判断し、本体を取り付けてから約14日間でスリープモード2に入ってしまう。この場合は、一旦メインコネクタ(A1)を本体から外してスリープ解除して下さい。 ・電源配線先を変えてみてください。配線先によっては電源容量不足により通信動作が不安定になる場合があります。特に、ハザードハーネスの電源配線を同一の場所へ配線すると容量不足の原因となりますのでお止め下さい。 ・本体のMODEスイッチ1の10「リモコン登録」がONになっていないか確認して下さい。 ・14日間エンジンを始動しない場合は、本体がスリープモード(バッテリー保護機能)に入っているため、通信出来ません。 ①警報機を動作させている場合(スリープモード1) 一度ドアを開け、警報させてから操作して下さい。 ②警報機を停止している場合(スリープモード2) エンジンキーにて、エンジンを始動してから操作して下さい。 ・車のバッテリーが弱っていないか確認して下さい。
	エラー音	「ブーブー」	
	バイブレーション動作	「ブルッ_ブルッ_ブルッ」	
本体受付エラー	液晶画面	とが交互に点滅表示。 	リモコンの操作を本体が受け付けていません。 ・エンジン駆動中は、警戒ON操作を本体が受け付けません。 ・本体のMODEスイッチ2の2「EGS機能設定」がONになっていないか確認して下さい。 ・7日間連続で警報機を動作させた場合、本体が省エネモード(バッテリー保護機能)に入っているため、警報機の停止/再動作・警報履歴の確認・ドアの再施錠・エンジン始動/停止(エンジンスターターキット(別売)を接続の場合)以外のリモコン操作を本体が受け付けません。一度リモコンで警報機を停止またはドアを開け、警報させてから操作して下さい。
	エラー音	「ブーブー」	
	バイブレーション動作	「ブルッ_ブルッ_ブルッ」	
ボタン操作エラー	液晶画面	—	リモコンの操作設定にない操作を行っています。もう一度操作内容を確認してから、操作して下さい。 特にボタン操作する際の短押し/長押しの間違いにご注意下さい。
	エラー音	「ブーブー」	
	バイブレーション動作	「ブルッ_ブルッ_ブルッ」	

バイブレーション機能の併用設定／解除

リモコンの発する音に合わせてバイブレーションを動作させ、音と振動にて確認するように出来ます。バイブレーション動作については、「バイブレーション動作内容一覧」を確認して下さい。

ステップ 1 リモコンの(FUNC)ボタンを押します。

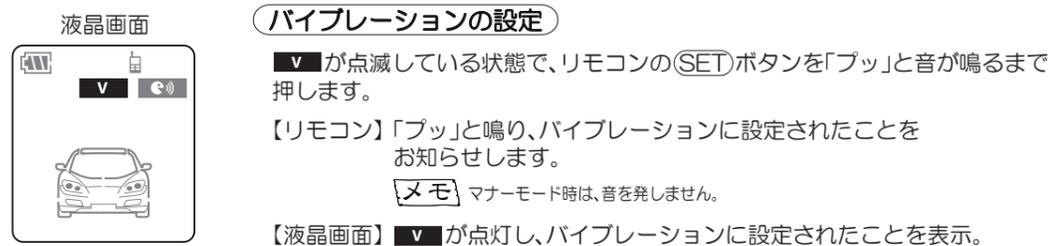
(FUNC)ボタンを押す音「ポッ」に合わせて液晶画面表示が下表のように変化します。



ステップ 2 V を点滅表示させます。

ステップ 3 バイブレーションを設定／解除します。

メモ 操作の途中でバックライトが消灯した場合は、もう一度ステップ1からやり直して下さい。



バイブレーションの解除

V が点滅している状態で、リモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。
 【リモコン】「パッ」と鳴り、バイブレーションが解除されたことをお知らせします。
 メモ マナーモード時は、音を発しません。
 【液晶画面】V が消灯し、バイブレーションが解除されたことを表示。

以上でバイブレーションの設定は、終了です。

【バイブレーション動作内容一覧】

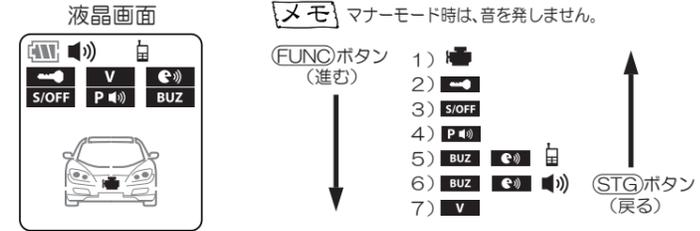
	バイブレーション動作
ボタン短押し時	ブルッ
ボタン長押し時	ブルルッ
ボタン同時長押し時	
ボタン操作無効エラー	ブルッ_ブルッ_ブルッ
リモコン操作時のアンサーバック受信時	ブルッ_ブルッ
異常感知通報受信時	ブルへっ...
警報履歴受信時	ブルへっ
通信エラー受信時	ブルッ_ブルッ_ブルッ
充電開始時	ブルッ
充電完了時	ブルッ_ブルッ_ブルッ
低電圧モード作動時	ブルへっ

リモコン操作時のアンサーバック音切り替え方法

リモコン操作時のアンサーバック音を音声／ブザー音に切り替えることが出来ます。リモコン操作時のアンサーバック音の内容については、「リモコン操作時のアンサーバック音一覧」を確認して下さい。

ステップ 1 リモコンの(FUNC)ボタンを押します。

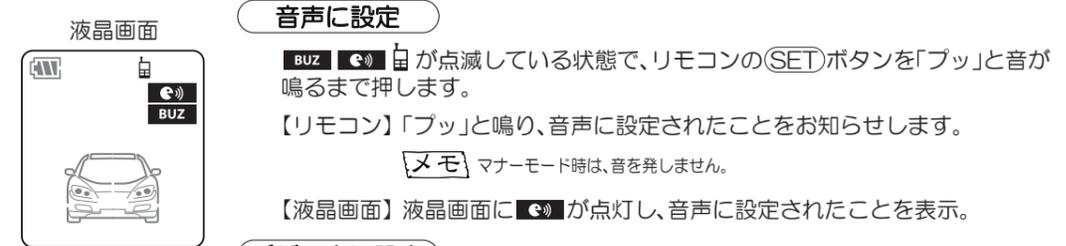
(FUNC)ボタンを押す音「ポッ」に合わせて液晶画面表示が下表のように変化します。



ステップ 2 BUZ を点滅表示させます。

ステップ 3 リモコン操作時のアンサーバック音を設定します。

メモ 操作の途中でバックライトが消灯した場合は、もう一度ステップ1からやり直して下さい。



ブザー音に設定

BUZ が点滅している状態で、リモコンの(RST)ボタンを「パッ」と音が鳴るまで押します。
 【リモコン】「パッ」と鳴り、ブザー音に設定されたことをお知らせします。
 メモ マナーモード時は、音を発しません。
 【液晶画面】液晶画面に BUZ が点灯し、ブザー音に設定されたことを表示。

以上でリモコン操作時のアンサーバック音の設定は、終了です。

【リモコン操作時のアンサーバック音一覧】

	音声設定時	ブザー音設定時
警戒ON(ドアロック連動時)	警戒を開始しました。	ピロリッ
警戒OFF(ドアロック連動時)	警戒を解除しました。	
警戒のみOFF	警戒を解除しました。	
警報停止	警報を停止しました。	
ドアのみロック	ドアをロックしました。	
ドアのみアンロック	ドアロックを解除しました。	
パニックアラーム動作	警報を開始しました。	
パニックアラーム停止	警報を停止しました。	
カーファインド動作	ピロリッ	
車両の状態および警報履歴の確認	(ブザー音が鳴ります。)	
エンジン始動	エンジンを始動しました。	ピロリッ
エンジン停止	エンジンを停止しました。	

充実の安心機能

警戒パターンメモリー機能

警報機が動作中に警報機の電源(バッテリーなど)が切られた場合でも、電源が切られる前の状態を警報機が記憶し、電源が再投入された時点から再度警戒を開始する機能です。行為的に電源が切られた場合でも、警報機は自動停止しません。

本体のオートスリープ機能

バッテリーを保護する機能です。3つのモードで段階的にバッテリーの消耗を抑え、バッテリーの負担を軽減します。

省エネモード

7日間連続で警報機を動作させた場合、省エネモードに入り、ドアスイッチセンサー以外のセンサーを全て停止します。またアンテナユニットのLED表示も遅い点滅となります。但し、スリープモード1の条件(14日間エンジンを開始しない)が、省エネモードの条件よりも先に当てはまると、スリープモード1に入ります。

メモ ・下記以外のリモコン操作を行った場合は、本体受付エラー(Eと3が交互に表示)が表示されます。
・警報機の再動作およびドア再施錠してもハザード表示しません。

【リモコンで行える操作】

- ・警報機の停止/再動作
- ・エンジンの始動/停止(エンジンスターターキット(別売)接続の場合)
- ・警報履歴の確認
- ・ドアの再施錠

【車両側が行える警報】

- ・サイレン/ホーン(選択)
- ・ハザード

【省エネモードが解除される行為】

- ・ドアを開け警報を行った場合
- ・リモコンで警報機を停止した場合

スリープモード1

下記どちらかの条件に当てはまるとスリープモード1に入り、ドアスイッチセンサー以外のセンサーを全て停止します。またアンテナユニットのLED表示も停止します。

【スリープモード1の条件】

- ・14日間連続で警報機を動作させた場合。
- ・14日間エンジンを始動させない状態が続き、そのとき警報機が動作していた場合。

メモ リモコン操作を行った場合は、通信エラー(Eと2が交互に表示)が表示されます。

【リモコンで行える操作】

- ・リモコン操作は、一切出来ません。

【スリープモード1が解除される行為】

- ・ドアを開け警報を行った場合

【車両側が行える警報】

- ・サイレン/ホーン(選択)
- ・ハザード

スリープモード2

14日間エンジンを始動させない状態が続き、そのとき警報機が停止していた場合、スリープモード2に入り、本体機能を全て停止します。

メモ リモコン操作を行った場合は、通信エラー(Eと2が交互に表示)が表示されます。

【リモコンで行える操作】

- ・リモコン操作は、一切出来ません。

【スリープモード2が解除される行為】

- ・エンジンキーにてエンジンを始動した場合

リモコンのオートスリープ機能

リモコンの電池容量を確保するための機能です。2つのモードで段階的に電池の消耗を抑え、電池の負担を軽減します。

低電圧モード

アイコン表示が1目盛(□)になった時点で、低電圧モードの通知音「ピピピピピピッ」が鳴り、バックライトとバイブレーションの機能を停止します。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

スリープモード

低電圧モードの通知音「ピピピピピピッ」が鳴ってから約3分後、強制的に電源を切ります。その後は、再度電源を入れることで警報機停止操作(警戒OFF)が、5回程度行えます。このような状態になった場合は、すぐに充電を行って下さい。

メモ マナーモード時は、音を発しません。

振動センサーの感度調整方法

ご購入時、振動センサーの大・小の各感度調整は、それぞれ最大(最も"敏感")に設定されています。

ステップ 1 リモコンで警報機を動作させます。
「警戒ステージ1_警報モードA」の警戒パターンで警報機を動作させて下さい。

ステップ 2 アンテナユニットの赤色LEDが点滅を開始してから、どの位の振動でセンサーが感知するか確認して下さい。

注意 動作確認で車へ振動を与える場合、強く叩きすぎてケガをしないように気をつけて下さい。またガラスやボディなどが、破損しないように十分注意して下さい。万一破損などが発生しても、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承下さい。

メモ 一旦センサーが感知すると、その後約5秒間は同レベルの振動(小振動あるいは大振動)を感知しません。

大振動センサー感知の場合



注意警報時(5秒警報)

小振動センサー感知の場合

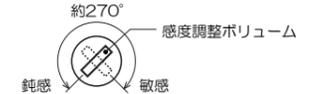


威嚇警報時(1秒警報)

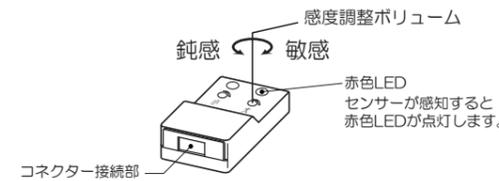
ステップ 3 振動センサーの感度を調整します。

大振動と小振動の感度調整ボリュームを付属の感度調整ドライバーを使用し、希望する感度に調整して下さい。

注意 ・感度調整ボリュームは、力を入れず軽く回して下さい。無理に回すと破損します。
・感度調整ボリュームは360°回転しません。

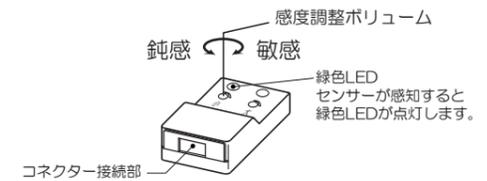


【大振動センサー感度調整】



時計回り	感度が「敏感」になります。
反時計回り	感度が「鈍感」になります。

【小振動センサー感度調整】



時計回り	感度が「敏感」になります。
反時計回り	感度が「鈍感」になります。

メモ ・大振動を感知した場合は、振動センサーの赤色LEDと一緒に緑色LEDも点灯します。
・本品の振動センサーは、主に窓ガラスを割られた際に発生する衝撃に対して感知させることを想定しております。車両によってボディを軽く叩く程度の衝撃にも感知させることが出来ますが、その場合は、犯人に対する威嚇効果を高められる反面、付近を車が通過したときなどに発生する外乱振動でも感知する可能性が高くなります。住宅密集地等の警報音が近所迷惑となるような場所では、適切と思われる感度に調整してお使い下さい。

小振動感度調整推奨例

小振動センサーの感度は、警戒パターン「警戒ステージ1_警報モードA」の状態で運転席または助手席側のガラスを強めに叩いたときに、威嚇警報(1秒警報)で警報するように感度調整して下さい。

調整上の注意

・振動センサーの感度を上記のように調整して頂くことで、外乱振動による誤動作を大幅に軽減することが出来ますが、下記のような状況下では、警報してしまう場合があります。

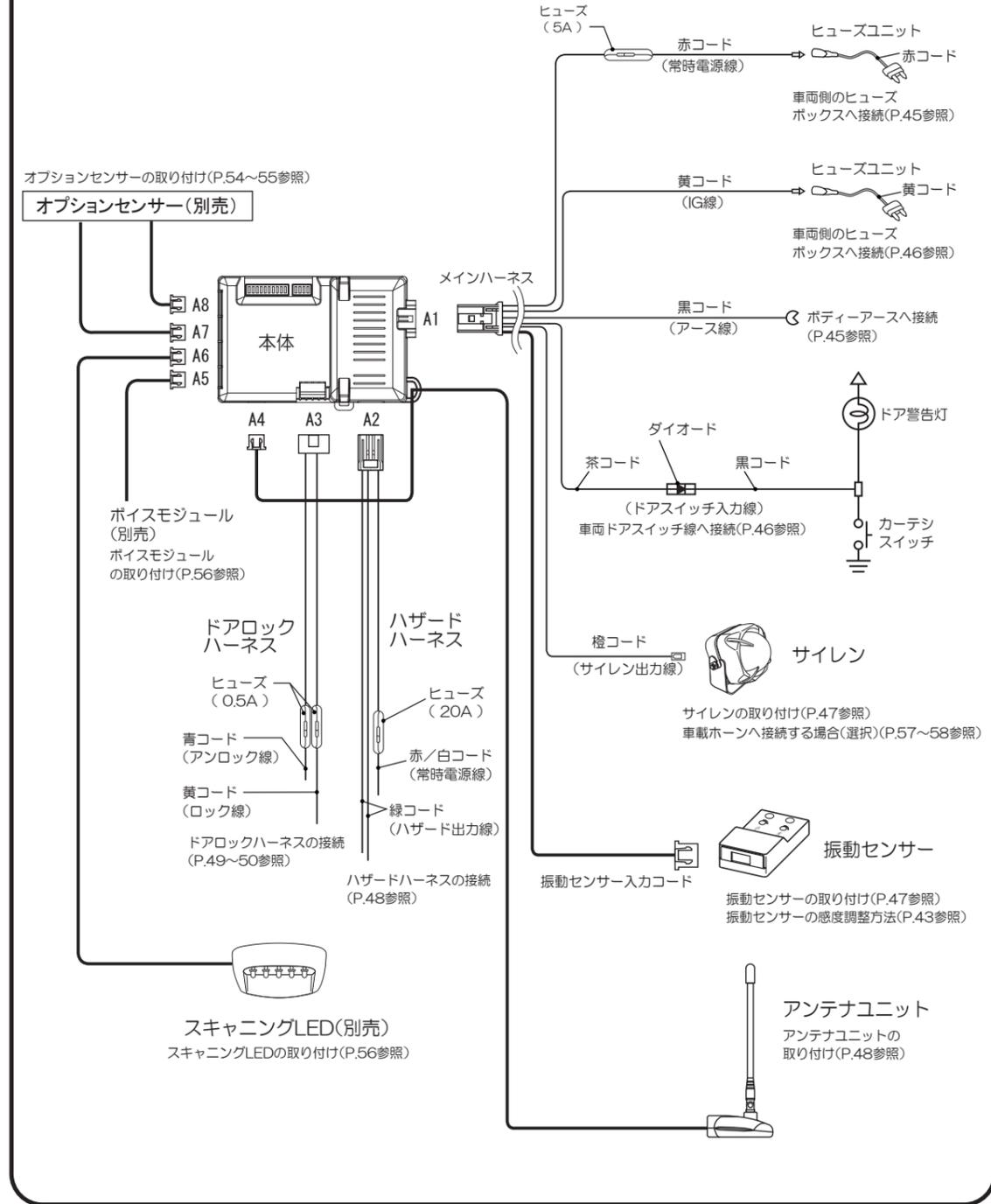
1. 強風・豪雨・雷雨・台風などの気象条件の場合。
2. 地震が起きた場合。
3. 線路付近・幹線道路沿い・工事現場付近・飛行場付近などの振動が発生する場所。

・振動センサーの感度は、車両の大きさやボディ剛性によって異なります。特にRV車や1BOX車などの大型車は、リヤガラスなどの車両後部に加えられた衝撃に対して感知出来ない場合があります。

ステップ 4 希望する感度に調整出来たら、警報機を停止(警戒OFF)して下さい。

以上で振動センサーの感度調整は、終了です。

注意 エンジンスターターキット(別売)を接続する場合、本品付属のメインハーネスは使用しません。
エンジンスターターキット付属のハーネスを使用して下さい。

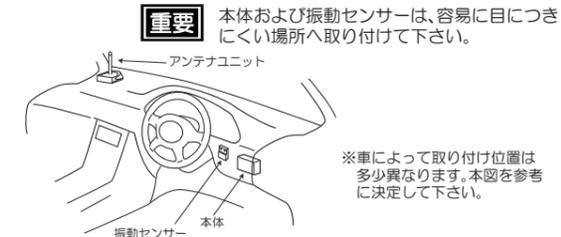


取り付け前の事前準備

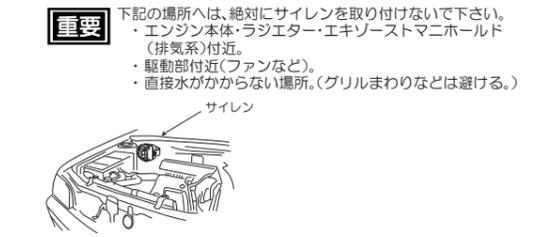
- パーキングブレーキをしっかりと引き、シフトレバーをPレンジの位置にして下さい。
- エンジンキーは、必ず抜いて下さい。
カードキーなどによるエンジン始動システム装着車は、不用意にエンジンがかからないようにして下さい。
- リモコンへ電池を挿入して下さい。詳細は、16ページの「電池の挿入」を確認して下さい。
- 取り付け工具を用意して下さい。
プラスドライバー・プライヤー・ニッパー・スパナ・アナログテスターなど。(工具は同梱されていません。)
- 必要に応じ、カバー類を取り外して下さい。

取り付けレイアウトイメージ

[車室内]



[エンジンルーム内]

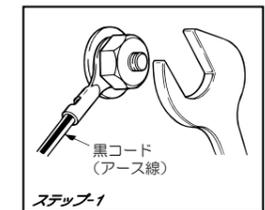


メインハーネスの配線

ステップ 1 黒コード(アース線)を接続します。

注意 塗装されている金属部分や車の振動などで緩んでしまう場所に接続しないで下さい。動作不良の原因となります。

メインハーネスの黒コードを車体の金属部分へ接続します。



ステップ 2 赤コード(常時電源線)を接続します。

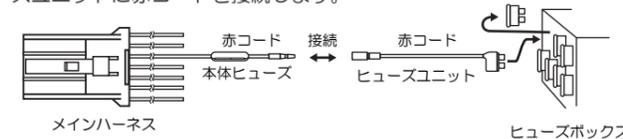
注意 赤コード(常時電源線)にハザードハーネスの赤/白コード(常時電源線)を分岐接続しないで下さい。車両のヒューズ切れや本体の動作不良の原因となります。

付属のヒューズユニット(赤コード)またはエレクトロタップを使用し、赤コードを接続します。

● ヒューズユニット(赤コード)による接続方法

注意 ヒューズユニットは、必ず車両側の青色(同じ定格電流)ヒューズと差し替えて下さい。色の違うヒューズと差し替えた場合、ヒューズが切れたり、車両側に悪影響を与える恐れがあります。

- ① 車両側のヒューズボックスの中で常時+12Vを示す青色ヒューズをテスターで探します。
- ② 付属のヒューズユニット(赤コード)の中から①で探したヒューズと同じ大きさのものをを選び、差し替えます。
- ③ ヒューズユニットに赤コードを接続します。



● エレクトロタップによる接続方法(車室内に該当する青色ヒューズがない場合)

注意 配線先によっては電源容量不足により本体の動作が不安定になる場合があります。その場合は、配線先を変更して下さい。
エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックして下さい。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

- ① 車両側の配線で常時+12Vを示すコードをテスターで探します。
- ② 赤コードのギボシ端子部を切断します。
- ③ 赤コードを①で探したコードにエレクトロタップで接続します。

メモ 赤コード接続用のエレクトロタップは、同梱されていません。エレクトロタップを別途用意して下さい。エレクトロタップは、自動車用低電圧線(AVS線)0.5mm²サイズ適応品を使用して下さい。

メインハーネスの配線(つづき)

ステップ3 黄コード(IG線)を接続します。

重要 保安基準では、「エンジン駆動中に警報機が動作(警戒ON)してはならない」と定められています。本品は、エンジン始動/停止状態を黄コード(IG線)の状態を判断していますので、必ず配線して下さい。

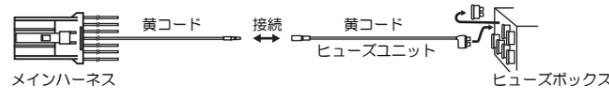
注意 黄コード(IG線)の配線を誤った場合、下記動作不良となりますので、正しく配線して下さい。
 ・誤って常時+12V線に接続した場合・・・リモコンの警戒ON操作時に、本体受付エラー(Eと3が交互に表示)となります。
 ・未接続あるいは誤って車両のアース線に接続した場合・・・使用開始から約14日間でスリープモードに入ります。

付属のヒューズユニット(黄コード)またはエレクトロタップを使用し、黄コードを接続します。

●ヒューズユニット(黄コード)による接続方法

注意 ヒューズユニットは、必ず車両側の青色(同じ定格電流)ヒューズと差し替えて下さい。色の違うヒューズと差し替えた場合、ヒューズが切れたり、車両側に悪影響を与える恐れがあります。

- ①車両側のヒューズボックスの中で、エンジンキーが「OFF」「ACC」のときにOV、「ON」のときに+12Vを示す青色ヒューズをテスターで探します。
- ②付属のヒューズユニット(黄コード)の中から①で探したヒューズと同じ大きさのものを選び、差し替えます。
- ③ヒューズユニットに黄コードを接続します。



●エレクトロタップによる接続方法(車室内に該当する青色ヒューズがない場合)

注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックして下さい。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

- ①車両側の配線でエンジンキーが「OFF」「ACC」のときにOV、「ON」のときに+12Vを示すコードをテスターで探します。
- ②黄コードのギボシ端子部を切断します。
- ③黄コードを①で探したコードにエレクトロタップで接続します。

メモ 黄コード接続用のエレクトロタップは、同梱されていません。エレクトロタップを別途用意して下さい。エレクトロタップは、自動車用低電圧線(AVS線)0.5mm²サイズ適応品を使用して下さい。

ステップ4 茶コード(ドアスイッチ入力線)を接続します。

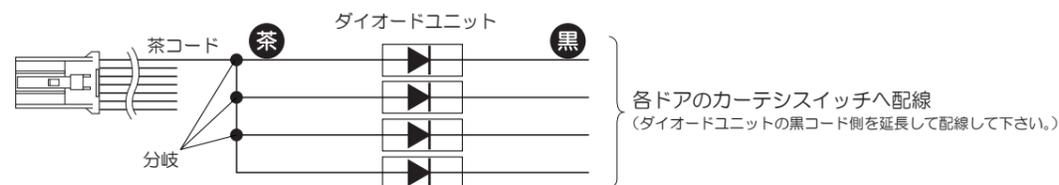
注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックして下さい。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

重要 保安基準では、「ルームランプおよびカーゴランプスイッチがOFF状態であっても、全てのドア、テールゲートまたはハッチ(ボンネットおよびトランクは除く)に対してドア開を検出すること」と定められています。必ず全てのドア開が検出できるように配線して下さい。
 ・茶コードの配線が困難なお車は、本品を取り付けることは出来ません。

注意 全てのドアを開めたときにOV、いずれかのドアを開けたときに+12Vとなる線へ接続する場合には、別途リレーが必要となります。

- ①ルームランプおよびカーゴランプスイッチをOFFにして下さい。(ドアを開けたときに、室内灯が点かない状態にする。)
- ②ドアの開閉に合わせて下記動作を示すコードをテスターで探します。
 ・ドアを開けたとき・・・OV付近まで電圧降下する、あるいはボディーアースと導通する。
 ・ドアを開けたとき・・・+12V付近まで電圧上昇する、あるいはボディーアースと非導通となる。
- ③茶コードを②で探したコードに付属のエレクトロタップ(赤色)で接続します。

メモ 車によって茶コードを1ヶ所に配線しただけでは、全てのドアの開閉を検出出来ない場合があります。そのような場合は、付属のダイオードユニットを使用して茶コードを分岐し、各ドアのカーテシスイッチへ配線して下さい。分岐する際は、エレクトロタップと延長コードを別途用意して下さい。エレクトロタップは、自動車用低電圧線(AVS線)0.5mm²サイズ適応品を使用して下さい。



振動センサーの取り付け

注意 振動センサーは、しっかりと固定して下さい。固定が不十分だと感度が鈍くなります。

ステップ1 振動センサーを取り付けます。

重要 容易に目につきにくい場所へ取り付けして下さい。

注意 取り付け姿勢が感度に大きく影響します。取り付け後は、必ず動作を確認し、感度を確かめて下さい。

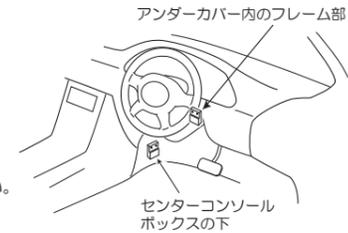
取り付け位置について

- 振動センサーは、車内のなるべく固い所へ設置すると振動を敏感に感知します。車体のフレームなどの金属部へ付属の両面テープでしっかりと貼り付けて下さい。また車体の各部へ加えられる衝撃をなるべく均一に得られるよう、センターコンソール付近等の車体中心部に取り付けて下さい。
- センサーは防水構造になっていないため、エアコンの吹き出し口付近に取り付けないで下さい。高温になったり結露し、故障の原因となります。

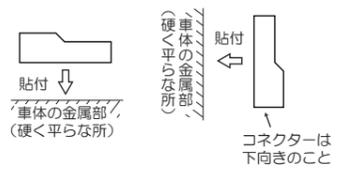
振動センサーの取り付け姿勢について

- 振動センサーの取り付け姿勢は、右図のいずれかの向きで取り付けして下さい。このとき感度調整が可能な向きとなっているか確認して下さい。

ステップ2 振動センサー入力コードを接続します。



[取り付け姿勢]



サイレンの取り付け

メモ 車載ホーンにて警報音および警戒ON/OFFの確認音を出力させたい場合は、別途57~58ページの「車載ホーンへの配線方法(選択)」に従って、配線して下さい。

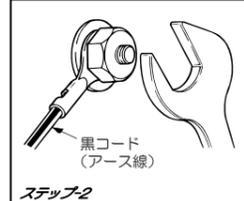
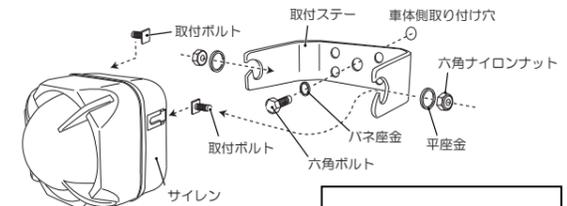
注意 ・下記の場所へは、絶対にサイレンを取り付けしないで下さい。故障の原因となります。
 ・エンジン本体・ラジエター・エキゾーストマニホールド(排気系)付近。
 ・駆動部付近(ファンなど)。
 ・直接水がかからない場所。(グリルまわりなどは避ける。)
 ・サイレンは、車の振動などで脱落しないように下図の取付姿勢を守り、確実に固定して下さい。またナットが振動で緩む場合もありますので、定期的な締め付け確認を行って下さい。この確認を怠った場合、サイレンが脱落し、事故・故障の原因となります。

ステップ1 サイレンを固定します。

サイレンをエンジンルーム内へ取り付けます。

- ①車両のネジ穴等を利用して取付ステーを車体に固定します。
- ②サイレンに取付ボルトを差し込み、取付ステーに締め付けます。

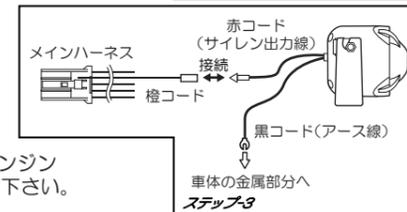
サイレンの取付姿勢



ステップ2 サイレンの黒コード(アース線)を接続します。

注意 塗装されている金属部分や車の振動等で緩んでしまう場所に接続しないで下さい。動作不良の原因となります。

サイレンから出ている黒コードを車体の金属部分へ接続します。



ステップ3 サイレンの赤コード(サイレン出力線)を接続します。

サイレンから出ている赤コードを車両のグローメット等を利用してエンジンルームから車室内へ引き込み、メインハーネスの橙コードへ接続して下さい。

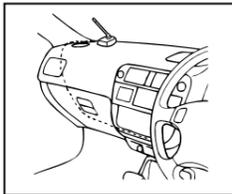
重要 赤コードは容易に目につきにくいように配線して下さい。

アンテナユニットの取り付け



警告 アンテナユニットは、ガラス面に近い場所にしっかりと固定して下さい。急ブレーキなどでアンテナに顔をぶつけ、ケガをする恐れがあります。
アンテナユニットは、運転の妨げになる場所やエアバッグの動作を妨げる場所には、取り付けしないで下さい。事故の原因となります。

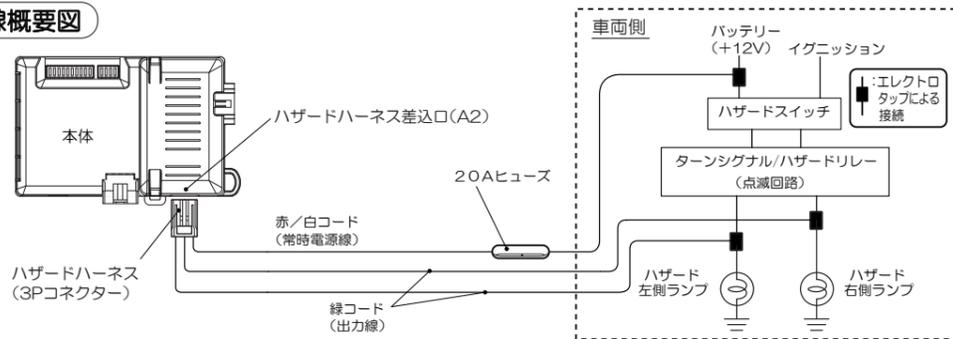
ダッシュボードのサイドビラーおよびデフォグガー吹き出し口から10cm以上離し、出来るだけフロントガラスに近い平らな場所に付属のマジックテープで固定して下さい。マジックテープは、アンテナユニット裏面のラベルを避けて貼って下さい。



ハザードハーネスの配線(任意)

この配線を行うことで、ハザードによる確認点滅や警報点滅が出来るようになります。但し、本品のハザード点滅回路で車両側のハザードを点滅させることが出来ない車種があります。新型車については、当社技術サービスまでお問い合わせ下さい。
[2006年9月現在・・・エルブランド(型式:E51)、MPV(型式:LY)]

配線概要図



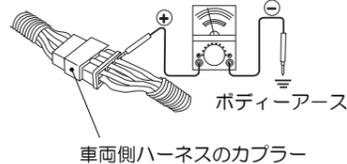
ステップ 1 カプラーを外すことで、ハザードスイッチを操作しても動作しなくなるカプラーを探します。必要に応じて周辺のカバーなどを外して下さい。(多くの車は、ハザードスイッチ周辺部にカプラーがあります。)外したカプラーは、元に戻して下さい。

ステップ 2 赤/白コード(常時電源線)を接続します。

警告 ハザードハーネスの赤/白コード(常時電源線)の配線は、車両側のハザード電源線以外の場所に接続しないで下さい。車両のヒューズ切れや事故の原因となります。
注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックして下さい。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

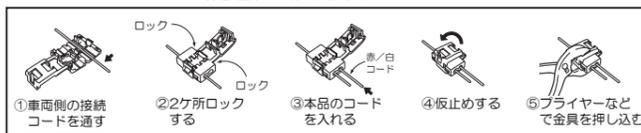
注意 メインハーネスの赤コード(常時電源線)に分岐接続しないで下さい。車両のヒューズ切れや本体の動作不良の原因となります。

- ①エンジンキーを抜いたときに常時+12Vを示すコードをテスターで探します。
- ②赤/白コードを①で探したコードに付属のエレクトロタップ(青色)で接続します。



ステップ 3 緑コード(出力線)を接続します。●エレクトロタップ(青色)の接続方法

- ①ハザードスイッチがOFFのときに0V、ハザードスイッチがONのときに0~12Vの範囲で針の振れを示すコードをテスターで2本探します。
- ②緑コードを①で探したコードに付属のエレクトロタップ(赤色)でそれぞれ接続します。



ステップ 4 本体のハザードハーネス差込口(A2)へハザードハーネスの3Pコネクタを接続します。

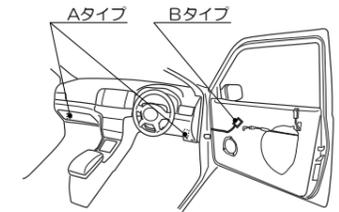
ドアロックハーネスの配線(任意)

この配線を行うことで、リモコンによるドアの施錠および解錠が出来るようになります。但し、車種によって取り付け出来なかったり、別売商品が必要となります。ドアロックハーネスを配線しない場合は、A3差込口の空コネクタを絶対に外さないで下さい。

ドアロックの配線可否については、店頭の「ドアロック適応車種一覧表」の最新版を確認して下さい。

ステップ 1 ドアロック配線タイプを確認します。

- Aタイプ：右図のような車室内位置にあるカプラーを探し、付属のドアロックハーネスで接続します。
- Bタイプ：右図のようなドアの内張り内にあるカプラーを探し、付属のドアロックハーネスで接続します。
- Cタイプ：別売のモーターキット(KES-O3)を使用し接続します。
- Dタイプ：別売のドアロック車種別専用キットを使用し接続します。
- Eタイプ：別売のキーレスアダプター(KES-O6)を使用し接続します。

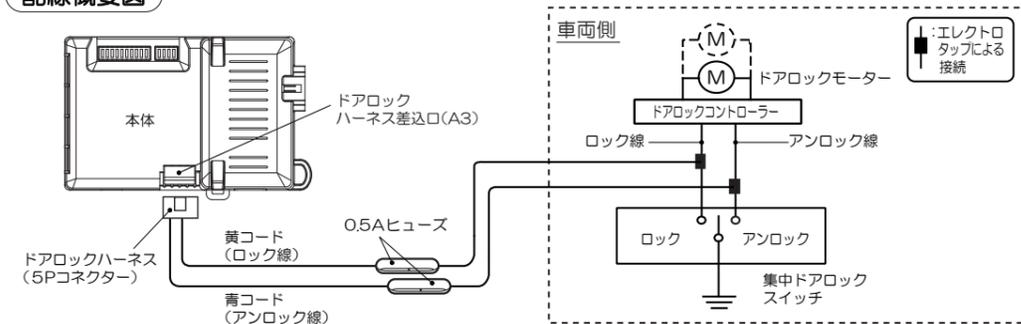


ステップ 2 配線タイプ別に配線を行います。

注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックして下さい。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

(1) Aタイプ及びBタイプの配線方法

配線概要図



- ①カプラーを外すことで、集中ドアロックスイッチを操作しても動作しなくなるカプラーを探します。必要に応じて周辺のカバーなどを外して下さい。外したカプラーは元に戻して下さい。
- ②ロック線およびアンロック線を探します。
[表A]のように示すコードをテスターで探します。

注意 ドアを開けた状態では、集中ドアロックが動作しない車両があります。必ずカプラーを外す前に動作することを確認して下さい。

[表A]

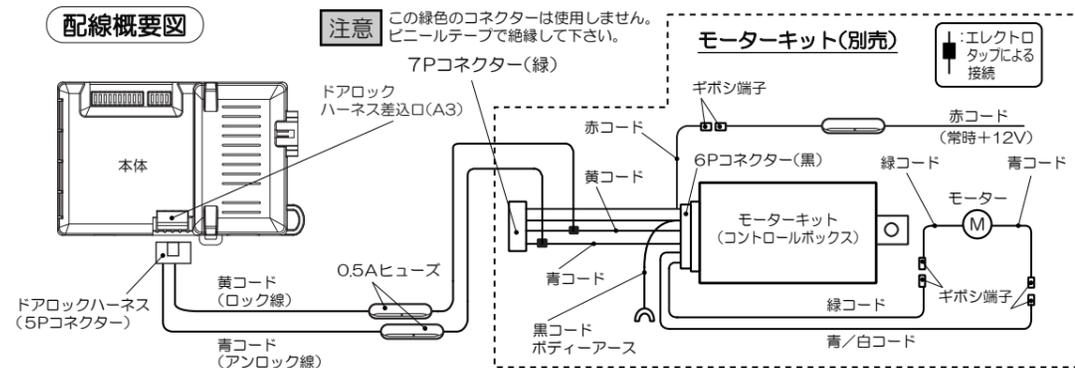
ドアロックハーネスの配線	特性
ロック線 (黄コードの配線先)	集中ドアロックスイッチを操作しないときに3~12V、ロック側へ操作しているときに0Vを示すコード。
アンロック線 (青コードの配線先)	集中ドアロックスイッチを操作しないときに3~12V、アンロック側へ操作しているときに0Vを示すコード。

- ③黄コードおよび青コードを②で探したコードに付属のエレクトロタップ(赤色)でそれぞれ接続します。
- ④本体のドアロックハーネス差込口(A3)の空コネクタを外し、ドアロックハーネスの5Pコネクタを差し込みます。



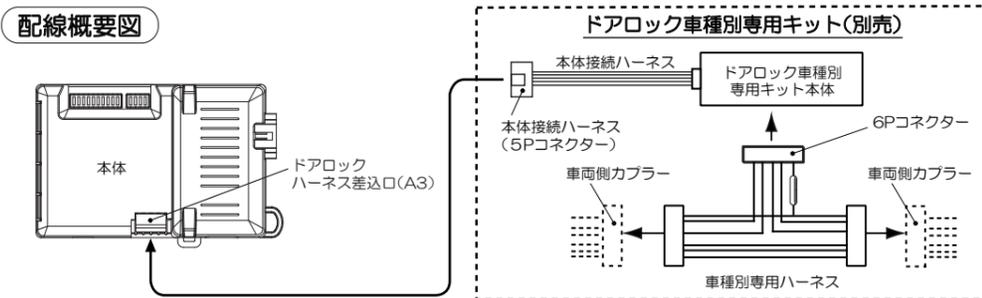
ドアロックハーネスの配線(任意 つづき)

(2)Cタイプの配線方法(モーターキット(KES-03)を使用し接続します。)



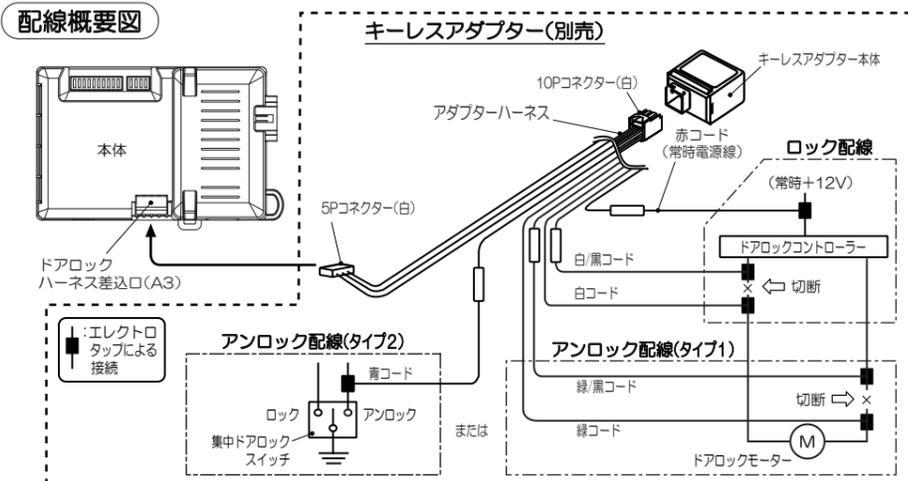
- ①モーターキットの取付・取扱説明書に従って、配線を行って下さい。
- ②ドアロックハーネスの「黄コード」をモーターキット付属のハーネスの「黄コード」へ付属のエレクトロタップ(赤色)で接続します。
- ③ドアロックハーネスの「青コード」をモーターキット付属のハーネスの「青コード」へ付属のエレクトロタップ(赤色)で接続します。
- ④本体のドアロックハーネス差込口(A3)の空コネクタを外し、ドアロックハーネスの5Pコネクタを差し込みます。

(3)Dタイプの配線方法(ドアロック車種別専用キットを使用し接続します。付属のドアロックハーネスは使用しません。)



- ①ドアロック車種別専用キットの取付・取扱説明書に従って、配線を行って下さい。
- ②本体のドアロックハーネス差込口(A3)の空コネクタを外し、本体接続ハーネスの5Pコネクタを差し込みます。

(4)Eタイプの配線方法(キーレスアダプター(KES-06)を使用し接続します。付属のドアロックハーネスは使用しません。)



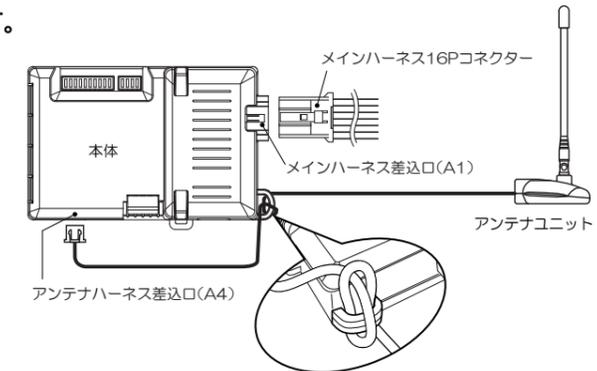
- ①キーレスアダプター(KES-06)の取付・取扱説明書に従って、配線を行って下さい。
- ②本体のドアロックハーネス差込口(A3)の空コネクタを外し、アダプターハーネスの5Pコネクタを差し込みます。

本体の取り付け

ステップ1 本体とアンテナユニットを接続します。

注意 アンテナハーネスは、振動などで外れないようにハーネスガイド穴に通してから、アンテナハーネス差込口へ確実に差し込んで下さい。(イラスト参照)。

本体のアンテナハーネス差込口(A4)へアンテナユニットから出ているハーネスのコネクタを差し込みます。



ステップ2 本体とメインハーネスを接続します。

本体のメインハーネス差込口(A1)へメインハーネスの16Pコネクタを差し込みます。

ステップ3 本体を固定します。

重要 本体の取り付け位置は、MODEスイッチの設定が行え、かつ容易に目につきにくい場所に付けて下さい。

- 警告** 本体は、運転の妨げになる場所やエアバッグの動作を妨げる場所には、取り付けしないで下さい。事故の原因となります。
- 注意** 本体は防水構造ではありません。水がかからない場所に取り付けて下さい。火災・故障の原因となります。本体は、エアコンの吹き出し口付近へは取り付けしないで下さい。高温になったり、結露し、故障の原因となります。

本体をインストルメントパネルのアンダーカバー内またはセンターコンソール内側などに取り付けて下さい。本体が走行中などに動かないよう、付属の結束バンドまたは市販の両面テープを使用して、しっかりと固定して下さい。

基本動作の確認

取り付け後、下記手順に従い必ず動作確認を行って下さい。動作しない場合は、59~60ページの「故障かな?と思ったら」を確認して下さい。

- 警告** 動作確認をする際は、必ず車の外に出てから行って下さい。また周囲に人がいないことを確認してから行って下さい。ショックを与える恐れがあります。
- 注意** 動作確認で車に振動を与える場合、強く叩きすぎてケガをしないように気をつけて下さい。またガラスやボディーなどが、破損しないように十分注意して下さい。万一破損などが発生しても、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承下さい。

注意 必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPレンジの位置にして下さい。

メモ これからの作業は、配線などが正しく行われているかどうかを確認するためのものです。配線類は固定しない状態で行って下さい。

ステップ1 動作確認前の準備

- パーキングブレーキをしっかりと引き、シフトレバーをPレンジにする。
- ルームランプおよびカーゴランプスイッチをOFFにする。(ドアを開けたときに、室内灯が点かない状態にする。)
- エンジンキーを携帯し、全てのドア、窓を閉め車の外に出る。(エアコン以外の電装品はOFFにする。)
- リモコンの(RST)ボタンを長押しし、電源を入れる。(電源がOFFになっている場合)

ステップ2 警報機を動作させます。

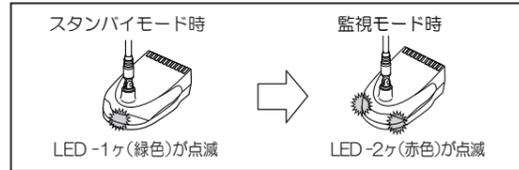
リモコンの(SET)ボタンを「ブツ」と音が鳴るまで押し、警報機が動作するか確認して下さい。このとき車両側が、下記表示を行うことも確認して下さい。さらにリモコンの警戒パターン表示が別の警戒パターンに設定されている場合は、23~24ページの「警報機の警戒パターンを変更し、動作させる」に従って、警戒パターンを「警戒ステージ1_警報モードA」に設定して下さい。

警戒設定	アンテナユニット	サイレン	ハザード	ドア
警戒ステージ1 警戒モードA	LED-1ヶ(緑色)が1回点灯	クックク	2回点滅 (配線時のみ)	施錠 (配線時のみ)

基本動作の確認(つづき)

ステップ3 スタンバイモードから監視モードへ移行することを確認します。

アンテナユニットのLEDが、下記表示に変化することを確認して下さい。



メモ アンテナユニットのLEDは、30秒間または5秒間のスタンバイモードが終了すると、自動的に監視モードへ移行します。スタンバイモード時間の切り替えについては、14ページの2「スタンバイモードの時間切替」を確認して下さい。

ステップ4 振動センサーの動作を確認します。

メモ 一旦センサーが感知すると、その後約5秒間は同レベルの振動(小振動あるいは大振動)を感知しません。

車のガラスやボディを叩いて、警報するか確認して下さい。このとき与えた振動の大小により、車両側とリモコンが、下記表示を行うことも確認して下さい。

	アンテナユニット	サイレン	ハザード	リモコン
小振動感知時	LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(1秒)	1秒 断続吹鳴	2回点滅(配線時のみ)	
大振動感知時	LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(5秒)	5秒 断続吹鳴	5秒点滅(配線時のみ)	

必要に応じて感度を調整して下さい。詳細は、43ページの「振動センサーの感度調整方法」を確認して下さい。ご購入時、振動センサーの大・小の各感度調整は、それぞれ最大(最も「敏感」)に設定されています。

ステップ5 ドアスイッチセンサーの動作を確認します。

重要 保安基準では、「ルームランプおよびカーゴランプスイッチがOFF状態であっても、全てのドア、テールゲートまたはハッチ(ボンネットおよびトランクは除く)に対してドア開を検出すること」と定められています。必ず全てのドア開が検出出来ることを確認して下さい。

車のドアを開け、全てのドアで警報するか確認して下さい。このとき車両側とリモコンが、下記表示を行うことも確認して下さい。

	アンテナユニット	サイレン	ハザード	リモコン
ドアスイッチ感知時	LED-2ヶ(赤色)が高速点滅(30秒)	30秒 連続吹鳴	30秒点滅(配線時のみ)	

ステップ6 警報機を停止させます。

メモ 警報動作中に(RST)ボタンを押すと警報のみが停止し、警報機は停止しません。このような場合は、バックライト(赤色)が消灯してからもう一度(RST)ボタンを押して下さい。

リモコンの(RST)ボタンを「バック」と音が鳴るまで押し、警報機が停止するか確認して下さい。このとき車両側とリモコンが、下記表示を行うことも確認して下さい。警報機を停止させると、リモコンから「警戒を解除しました。履歴があります。」と発声します。

アンテナユニット	サイレン	ハザード	ドア	リモコン
LED-2ヶ(赤色)が1回点灯	クッククク	3回点滅(配線時のみ)	解錠(配線時のみ)	

基本動作の確認(つづき)

ステップ7 アイドリング中に「警戒ON」出来ないことを確認します。

重要 保安基準では、「エンジン駆動中は警報機が動作(警戒ON)してはならない」と定められています。

- ① エンジンキーでエンジンを始動して下さい。
- ② リモコンで警戒ON操作をして下さい。(ステップ2の操作)
- ③ 操作後、リモコンの液晶画面に「本体受付エラー(Eと3が交互に表示)」が表示されることを確認して下さい。

以上で基本動作の確認は、終了です。

仕上げ

ステップ1 配線したハーネス類を整理します。

警告 ・ハーネス類などは、ステアリングシャフトやペダル類の可動部付近には固定しないで下さい。運転操作の妨げになり、事故の原因となります。
・配線したハーネス類は、ビニールテープや結束バンドなどで確実に固定して下さい。固定が不十分だと脱落し、事故の原因となります。

注意 ・接続していない端子部は、ビニールテープなどで絶縁処理して下さい。ショートし、火災・故障の原因となります。

これまでに配線したハーネス類をビニールテープや付属の結束バンドなどを使用して、確実に固定して下さい。

ステップ2 外したカバー等を元に戻します。

警告 車のカバーや内張りなどで配線類を挟み込まないようにして下さい。断線やショートし、火災・故障の原因となります。

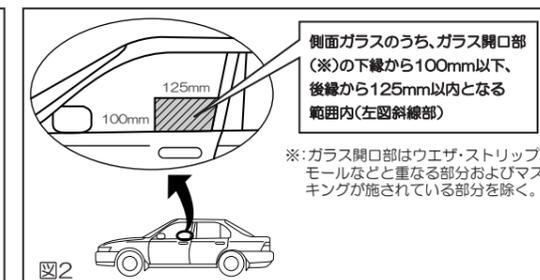
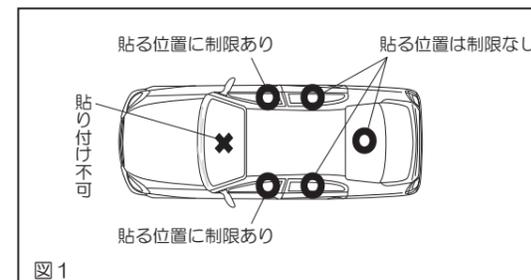
ステップ3 VAS登録証および設定内容確認表(62ページ)に必要事項を記入して下さい。

以上で取り付け作業は、終了です。

付属のステッカーを貼り付ける場合(任意)

重要 ステッカーは、図1に示すように貼り付け出来る窓ガラスが保安基準で定められています。また運転席および助手席の窓ガラスに貼り付ける場合は、図2の位置に制限されます。

上記保安基準に従って、ステッカーを貼り付けて下さい。



オプションセンサーの取り付け

オプションセンサーを取り付けることで、お車に合わせた監視を実現します。
各オプションセンサーのセンサーレベルや機能などについては、9ページをご覧ください。

基本配線方法

オプションセンサーのコネクターを本体に接続するだけで、オプションセンサーの機能が使用出来るようになります。
組み合わせ出来るオプションセンサーは、右表の通りです。
オプションセンサーとセンサーレベルについては、9ページの「豊富なオプション商品」を確認して下さい。

	レベル1	レベル2	レベル3
接続例1	○	○	—
接続例2	—	○	○
接続例3	—	○	○
接続例4	○	—	○

ステップ1 本体のオプションセンサー差込口のリッドを外します。

注意 ・オプションセンサーを取り付ける場合を除き、リッドは外さないで下さい。本体内部に異物が入り、故障の原因となります。
・リッドを外す際は、ケガのないよう十分注意して行って下さい。

接続する各センサーの「センサーレベル」を確認の上、下記に該当するリッドを外して下さい。

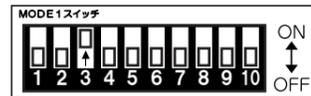
A7リッド: センサーレベル2
または3を接続。
A8リッド: センサーレベル1
または2を接続。



ステップ2 オプションセンサーを接続します。

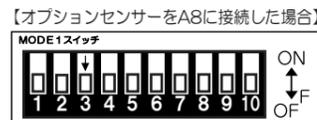
(1) オプションセンサーレベル1を接続する場合

- 各センサーの取付・取扱説明書に従って、取り付けを行って下さい。
- 本体のオプションセンサーハーネス差込口(A8)へオプションセンサーのコネクターを差し込みます。
- 本体のMODE1スイッチメニューの3「OP1センサーレベル」をONにして下さい。



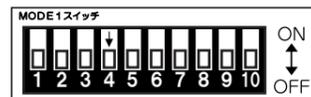
(2) オプションセンサーレベル2を接続する場合

- 各センサーの取付・取扱説明書に従って、取り付けを行って下さい。
- 本体のオプションセンサーハーネス差込口(A7またはA8)へオプションセンサーのコネクターを差し込みます。
- A7へオプションセンサーを接続した場合:
本体のMODE1スイッチメニューの4「OP2センサーレベル」をONにして下さい。
A8へオプションセンサーを接続した場合:
本体のMODE1スイッチメニューの3「OP1センサーレベル」をOFFにして下さい。



(3) オプションセンサーレベル3を接続する場合

- 各センサーの取付・取扱説明書に従って、取り付けを行って下さい。
- 本体のオプションセンサーハーネス差込口(A7)へオプションセンサーのコネクターを差し込みます。
- 本体のMODE1スイッチメニューの4「OP2センサーレベル」をOFFにして下さい。

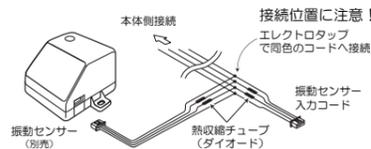


オプションの振動センサー配線方法

注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックして下さい。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

注意 青コードと緑コードを接続する際は、ダイオードと本体に接続するコネクターの間に接続して下さい。

メインハーネスの振動センサー入カコードにオプションの振動センサーコードをエレクトロタップでそれぞれ同じ色のコードに接続します。



オプションセンサーの取り付け

特殊配線方法

オプションセンサーを3個以上接続する場合の配線方法です。また1つのコネクターに接続するセンサーは2個までとして下さい。但し、エリアセンサー(TKP-02)および超音波センサー(TKP-05)は、車両1台につきそれぞれ1ヶまでしか使用出来ません。

メモ オプションセンサー接続用のエレクトロタップは、同梱されていません。エレクトロタップを別途用意して下さい。エレクトロタップは、自動車用低電圧線(AVSS線)0.3mm²サイズ適用品を使用して下さい。

ステップ1 本体のオプションセンサー差込口のリッドを外します。

注意 ・オプションセンサーを取り付ける場合を除き、リッドは外さないで下さい。本体内部に異物が入り、故障の原因となります。
・リッドを外す際は、ケガのないよう十分注意して行って下さい。

A7およびA8リッドを外して下さい。



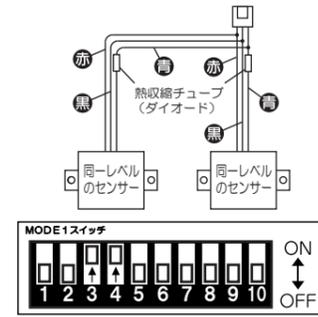
ステップ2 オプションセンサーを接続します。

注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックして下さい。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

注意 ・コネクターを切断する際は、青コードのダイオード(熱収縮チューブ)を切断しないように注意して下さい。
・センサーどうしを接続する際は、ダイオードと本体に接続するコネクターの間に接続して下さい。

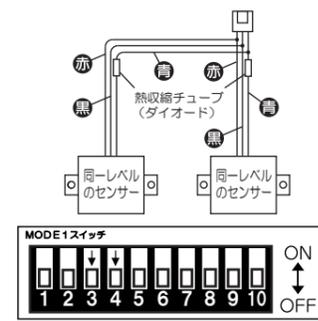
(1) オプションセンサーレベル1と2を複数接続する場合

- 各センサーの取付・取扱説明書に従って、取り付けを行って下さい。
- 本体のオプションセンサーハーネス差込口(A8)へオプションセンサー「レベル1」のコネクターを差し込みます。
- 本体のオプションセンサーハーネス差込口(A7)へオプションセンサー「レベル2」のコネクターを差し込みます。
- 接続していないオプションセンサーのコネクターを切断します。
- 同じセンサーレベルのオプションセンサーどうしのコードをエレクトロタップでそれぞれ同じ色のコードに接続します。
- 本体のMODE1スイッチメニューの3「OP1センサーレベル」をONにして下さい。
- 本体のMODE1スイッチメニューの4「OP2センサーレベル」をONにして下さい。



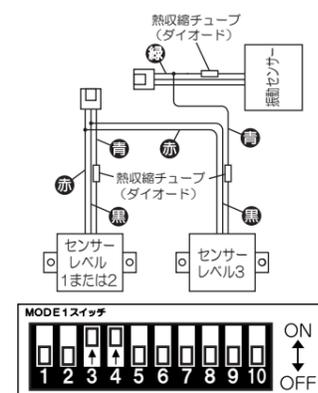
(2) オプションセンサーレベル2と3を複数接続する場合

- 各センサーの取付・取扱説明書に従って、取り付けを行って下さい。
- 本体のオプションセンサーハーネス差込口(A8)へオプションセンサー「レベル2」のコネクターを差し込みます。
- 本体のオプションセンサーハーネス差込口(A7)へオプションセンサー「レベル3」のコネクターを差し込みます。
- 接続していないオプションセンサーのコネクターを切断します。
- 同じセンサーレベルのオプションセンサーどうしのコードをエレクトロタップでそれぞれ同じ色のコードに接続します。
- 本体のMODE1スイッチメニューの3「OP1センサーレベル」をOFFにして下さい。
- 本体のMODE1スイッチメニューの4「OP2センサーレベル」をOFFにして下さい。



(3) オプションセンサーレベル1と2と3を接続する場合

- 各センサーの取付・取扱説明書に従って、取り付けを行って下さい。
- 本体のオプションセンサーハーネス差込口(A8)へオプションセンサー「レベル1」のコネクターを差し込みます。
- 本体のオプションセンサーハーネス差込口(A7)へオプションセンサー「レベル2」のコネクターを差し込みます。
- オプションセンサー「レベル3」のコネクターを切断します。
- オプションセンサー「レベル3」の赤と黒コードをセンサーレベル1または2の同じ色のコードにエレクトロタップで接続します。
- オプションセンサー「レベル3」の青コードを振動センサーの緑コードにエレクトロタップで接続します。
- 本体のMODE1スイッチメニューの3「OP1センサーレベル」をONにして下さい。
- 本体のMODE1スイッチメニューの4「OP2センサーレベル」をONにして下さい。



メモ この接続を行った場合、オプションセンサー「レベル3」の異常感知情報は、振動センサーの感知情報と同一の内容で通知します。

威嚇警報オプションの取り付け

車載ホーンへの配線方法(選択)

スキャニングLED(別売)の取り付け

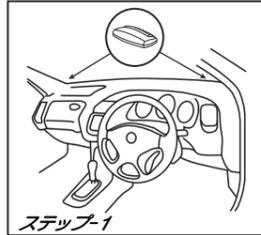
超高輝度LEDにてスキャニング点滅を行い、威嚇効果を更に発揮します。

ステップ1 スキャニングLEDを取り付けします。

警告 運転の妨げになる場所やエアバッグの動作を妨げる場所には、取り付けしないで下さい。事故の原因となります。

注意 ダッシュボード上の中央部に取り付けしないで下さい。熱により変形し、故障の原因となります。

LEDの動作が、外部からよく見える場所に取り付けます。取り付ける際は、取り付け位置の汚れや油分をきれいに拭き取ってから、付属の両面テープで確実に固定して下さい。

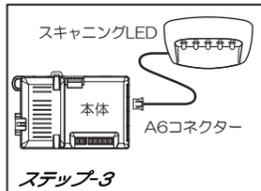


ステップ1

ステップ2 本体のスキャニングLEDハーネス差込口(A6)のリッドを外します。

注意 ・スキャニングLEDを取り付ける場合を除き、リッドは外さないで下さい。本体内部に異物が入り、故障の原因となります。
・リッドを外す際は、ケガのないよう十分注意して行って下さい。

【リッドの外し方】
リッド
マイナスドライバー
マイナスドライバーを下側ケースのすき間に差し込み、上側ケースのリッドを割り、コネクタが見えるようにして下さい。



ステップ3

ステップ3 本体へ接続します。

本体のスキャニングLEDハーネス差込口(A6)へスキャニングLEDのコネクタを差し込みます。

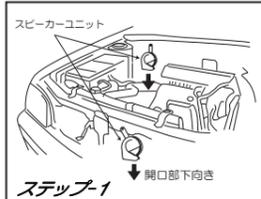
ボイスモジュール(別売)の取り付け

音声と電子音にて警報を行い、ボイス(日本語/英語)による威嚇効果を更に発揮します。

ステップ1 ボイスモジュールを取り付けします。

ボイスモジュールの取付・取扱説明書に従って、取り付けして下さい。

重要 保安基準では、「本警報音=サイレン(あるいはホーン)」である必要があります。従ってボイスモジュール取り付け時であっても、必ずサイレン(あるいはホーン)の接続を行って下さい。また車検の際は、このMODEスイッチをOFFにして下さい。

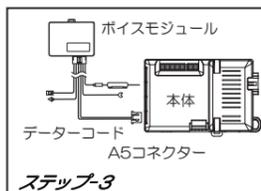


ステップ1

ステップ2 本体のボイスモジュールハーネス差込口(A5)のリッドを外します。

注意 ・ボイスモジュールを取り付ける場合を除き、リッドは外さないで下さい。本体内部に異物が入り、故障の原因となります。
・リッドを外す際は、ケガのないよう十分注意して行って下さい。

【リッドの外し方】
リッド
マイナスドライバー
マイナスドライバーを下側ケースのすき間に差し込み、上側ケースのリッドを割り、コネクタが見えるようにして下さい。



ステップ3

ステップ3 本体へ接続します。

本体のボイスモジュールハーネス差込口(A5)へボイスモジュールデータコードのコネクタを差し込みます。

ステップ4 本体のMODE1スイッチメニューの6~9番でボイスモジュールを使用する設定を行って下さい。

メニューの詳細内容については、14~15ページの「本体MODEスイッチの機能と設定」を確認して下さい。

ボイスモジュールの発声について

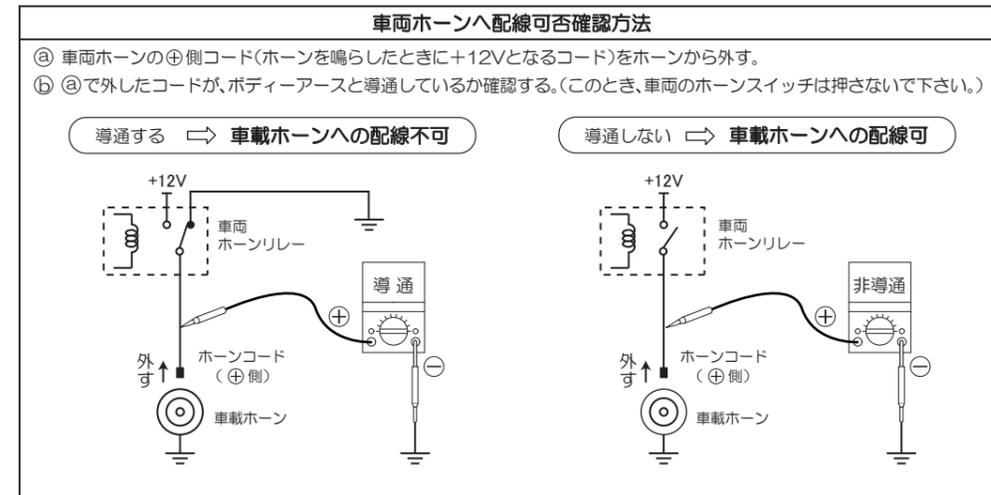
ボイスモジュール取付・取扱説明書の「収録音声一覧」に対して、下記の音声を発声しませんので、ご承知置き下さい。

- ①半ドア検知時の警告
- ②乗り逃げ防止

この配線を行うことにより、サイレンの代わりに車載ホーンにて警報を行い、威嚇効果を更に発揮します。但し、ホーン回路の構造によりホーン警報が出来ない車種があります。

配線をする前に

- 下記①~③のいずれかに当てはまる車では、ホーン警報出来ません。付属のサイレンを使用して下さい。
- ① エンジンキーを抜いた状態でステアリングのホーンスイッチを押したとき、ホーンが鳴らない車。
- ② ON時間が0.25秒以下で、ホーンが鳴らない車。
- ③ 下記の確認方法にて、車両ホーンのコードがボディーアースと導通してしまう車。

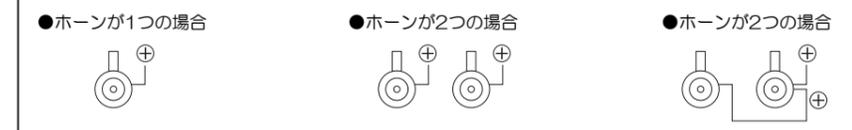


- 車載ホーンへ接続するには、別途ホーンリレーが必要です。(当社のリレー RC-2217およびヒューズを別途お買い求め下さい。)

ステップ1 車載ホーンのスイッチ方式を確認します。(上記にて車載ホーンへの配線が出来る車か必ず事前に確認して下さい。)

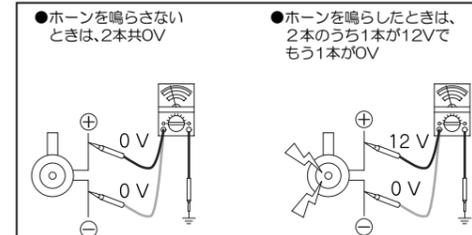
下記を参考に車載ホーンの「スイッチ方式」を確認して下さい。

(A) 車のホーン1個に対し、端子が1つの場合: プラススイッチ方式です。

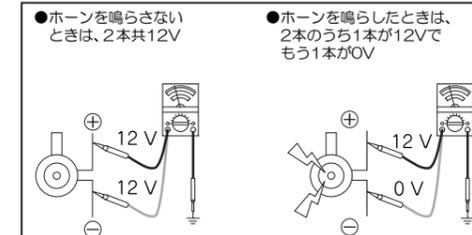


(B) 車のホーン1個に対し、端子が2つの場合
ホーンへの配線にテスターを当てて特性を確認し、下図にてスイッチ方式を確認して下さい。

【プラススイッチ方式】



【マイナススイッチ方式】



注意 ホーンが2つある車の場合、どちらか1つで上記の確認をして下さい。

注意 ホーンが2つある車の場合、どちらか1つで上記の確認をして下さい。

車載ホーンへの配線方法(選択 っづき)

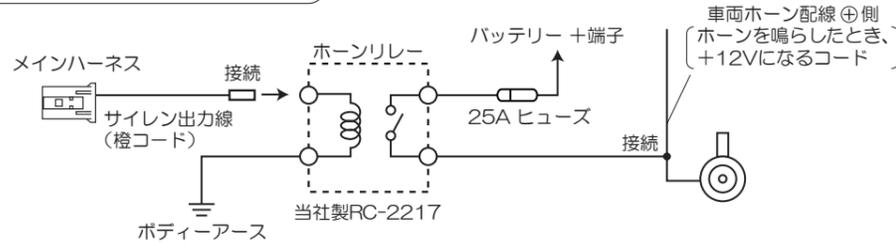
故障かな?と思ったら

ステップ2 ホーンのスイッチ方式に従って、配線をします。

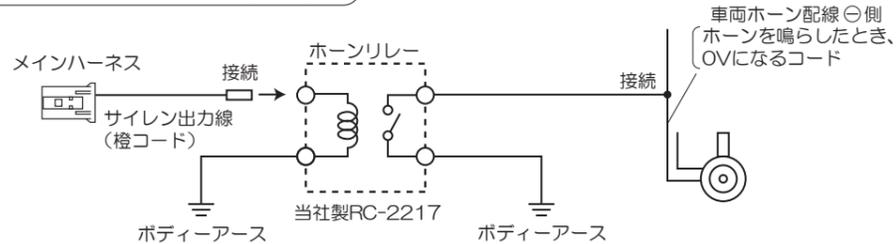
ホーンが2つある場合、どちらか1個のホーンのみに配線して下さい。

- 注意**
- ・塗装されている金属部分や車の振動などで緩んでしまう場所に接続しないで下さい。動作不良の原因となります。
 - ・配線する際は、必ずリレーを使用して下さい。故障の原因となります。
 - ・リレーとホーンを接続する際は、ホーンに接続されているハーネスの線径以上のリード線を使用して下さい。

プラススイッチ方式の配線方法



マイナススイッチ方式の配線方法



ステップ3 本体のMODE1スイッチメニューの5「車載ホーン配線」をONにします。

注意 車載ホーン配線を行った場合は、必ず本体のMODE1スイッチメニューの5「車載ホーン配線」をONにして下さい。連続吹鳴し、車載ホーンの原因となります。

ステップ4 配線したハーネス類を整理します。

警告

- ・ハーネス類などは、ステアリングシャフトやペダル類の可動部付近には固定しないで下さい。運転操作の妨げになり、事故の原因となります。
- ・配線したハーネス類は、車両の高温になる場所(エンジン・ラジエーターなど)の近くに固定しないで下さい。
- ・断線やショートし、火災・故障の原因となります。
- ・配線したハーネス類は、ビニールテープや結束バンドなどで確実に固定して下さい。また車のカバーや内張りなどで配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートし、火災・故障の原因となります。

これまでに配線したハーネス類をビニールテープや結束バンドなどを使用して、確実に固定して下さい。

このような時	チェックしてください	処置	参照ページ
リモコンのスイッチを操作しても送信表示しない。	スイッチ操作は間違っていないですか? ボタン操作する際の短押し/長押しの間違ひにご注意下さい。	本書に従い正しく操作して下さい。	-
	ボタン操作禁止の設定がされていませんか?	ボタン操作禁止の設定を解除して下さい。	20
リモコンは送信するが、「E1」エラー表示になる。	—————	近くで同じ周波数帯の電波が使用されています。しばらくしてから、もう一度操作して下さい。	37
リモコンは送信するが、「E2」エラー表示になる。	メインハーネスの常時電源線(赤コード)が正しく接続されていますか?	接続先を確認して下さい。 ・接続先によっては、電源容量不足により通信動作が不安定になる場合があります。 ・確実に接続されていないと、通信動作が不安定になる場合があります。	45
	メインハーネスのアース線(黒コード)が正しく接続されていますか?	接続先を確認して下さい。 ・接続先によっては(塗装された車体の金属部へ接続を行ったなど)、動作電流がうまく通電せずに通信動作が不安定になる場合があります。 ・確実に接続されていないと、通信動作が不安定になる場合があります。	45
	メインハーネスの常時電源線(赤コード)とハザードハーネスの常時電源線(赤/白コード)の電源線が同じ場所に接続されていますか?	メインハーネスとハザードハーネスの常時電源線は、同じ場所に接続しないように接続先を見直して下さい。 メインハーネスとハザードハーネスの常時電源線を同じ場所に接続してしまうと、車両側の電源容量不足により通信動作が不安定となる場合があります。	45, 48
	メインハーネスのIG線(黄コード)が正しく接続されていますか?	接続先を確認して下さい。 IG線(黄コード)が未接続あるいは車両のアース線に接続されていると、本体は常時エンジン停止状態と判断し、本品を取り付けてから約14日間でスリープモード2に入ってしまうます。この場合は、一旦メインコネクター(A1)を本体から外して、スリープ解除して下さい。	46
	14日間、警報機を連続動作させていた。	スリープモード1に入っています。ドアを開け、警報させてから操作して下さい。	42
	14日間、エンジンがかけなかった。	14日目終了時に、警報機が動作していた。 14日目終了時に、警報機が停止していた。	42
	ヒューズが切れていませんか?	ヒューズ切れの要因を解決してから、ヒューズを交換して下さい。	-
	本体のMODEスイッチ1の10「リモコン登録」がONになっていませんか?	MODEスイッチをOFFにして下さい。	14~15
	通信圏外にいませんか?	車に近づいて操作して下さい。	-
	アンテナユニットと本体が確実に接続されていますか?	確実に接続して下さい。	51
	車のバッテリーが弱っていませんか?	車のバッテリーを点検し、正常な状態にして下さい。	-
リモコンは送信するが、「E3」エラー表示になる。	メインハーネスのIG線(黄コード)が常時電源線に接続されていませんか?	接続先を確認して下さい。 IG線(黄コード)が常時電源線に接続されている場合は、リモコンによる警戒ON操作を本体が受け付けません。	46
	7日間連続で警報機を動作させていませんか?	省エネモードに入っています。一度リモコンで警報機を停止またはドアを開け、警報させてから操作して下さい。	42
	本体のMODEスイッチ2の2「EGS機能設定」がONになっていませんか?	MODEスイッチをOFFにして下さい。	14~15
	エンジンスターターキット(別売)を接続していませんか?	オートマチック車の登録をして下さい。詳細は、エンジンスターターキット(別売)の取付・取扱説明書をご覧ください。	-
リモコンの充電ができない。	電池の向きが(+,-)間違っていないですか?	電池の向きを確認して下さい。	16
	リモコンに充電アダプターのプラグが確実に接続されていますか?	確実に接続して下さい。	17
	充電可能な温度範囲で充電をしていますか?	充電可能な温度範囲で充電を行って下さい。	17
	当社指定の電池を使用していますか?	当社指定の電池に入れ替えて下さい。	61

故障かな?と思ったら(つづき)

このような時	チェックしてください	処 置	参照ページ
充電後、リモコンの電池残量アイコンの目盛りがすぐに減ってしまう。	1年以上電池を使用していませんか? 寒い環境で使用していませんか?	当社指定の新しい電池と交換して下さい。 電池の特性上、寒い環境で使用すると、電池残量目盛りの減りが早くなります。	61 17, 61
リモコンの電源がすぐOFFになる。	リモコンの電池が消耗していませんか?	充電を行うか、当社指定の新しい電池と交換して下さい。	17, 61
リモコンが約3分に1回の頻度で警報履歴通知を繰り返す。	車両側で警報が発生した際に、リモコンが異常感知通報を受信出来なかったことにより、定期通信にて再通知をしていると思われませんか?	通知を止める場合は、リモコンで「警報履歴を確認する」(FUNC)長押し操作を行って下さい。	31
警報機が動作しない。 [リモコンの液晶画面に本体受付エラー(Eと3が交互に表示)が表示される]	エンジンがかかっていますか? メインハーネスのIG線(黄コード)の接続先が間違っていますか?	エンジンを停止させてから、再度警戒ON操作して下さい。 アイドリング中は、警戒ON操作出来ません。 接続先を確認して下さい。 IG線(黄コード)が常時電源線に接続されている場合は、警戒ON操作出来ません。	- 46
警報機が警報しない。	警報機が動作していますか? 警報機が監視モードになっていますか?	警報機を動作させて下さい。 アンテナユニットのLEDが監視モード点滅を始めてから確認して下さい。	21 21
ドアを開けても警報しない。	ドアスイッチ入力線(茶コード)の接続先が間違っていますか? ドアスイッチ入力線(茶コード)はしっかりと接続されていますか?	接続先を確認して下さい。 接触不良のないよう確実に接続して下さい。	46 46
振動を与えても警報しない。	警戒ステージ3で警報機を動作させていませんか? 振動センサーは、車体の振動が伝わる場所に取り付けられていますか? 振動センサーの感度が、鈍感になっていませんか?	警戒ステージ1または2で警報機を動作させて下さい。 振動センサーを車体の振動が伝わる場所に取り付けて下さい。 振動センサーの感度を敏感にして下さい。	23~24 47 43
サイレンで警報しない。	サイレンの赤コードが確実に接続されていますか? サイレンの黒コードが確実に接続されていますか? 本体のMODEスイッチ1の6~9「警報音選択」がON(ボイス)になっていませんか?	サイレンの赤コードとメインハーネスの橙コードを確実に接続して下さい。 サイレンの黒コードを車体の金属部へ確実に接続して下さい。 本体のMODEスイッチ1の6~9「警報音選択」をOFF(サイレン)にして下さい。	47 47 14~15
車載ホーンで警報しない。	車載ホーンへの配線が間違っていますか? 本体のMODEスイッチ1の6~9「警報音選択」がON(ボイス)になっていませんか?	配線を確認して下さい。 本体のMODEスイッチ1の6~9「警報音選択」をOFF(ホーン)にして下さい。	57~58 14~15
勝手に警報する。	ドアスイッチ入力線(茶コード)の接続先が間違っていますか? 振動センサーがしっかりと固定してありますか? 振動センサーの感度が敏感になっていませんか? 周囲に外乱振動を起こすようなものがありますか?	接続先を確認して下さい。 固定状態を確認して下さい。 振動センサーの感度を鈍感にして下さい。 周囲を確認して下さい。	46 47 43 -
ドアがロック/アンロックしない。	ドアロックハーネスがしっかりと接続されていますか? ドアロックハーネス(黄コードと青コード)の接続先が間違っていますか? ドアロックハーネスのヒューズが切れていませんか?	接触不良のないよう確実に接続して下さい。 接続先を確認して下さい。 ヒューズ切れの要因を解決してから、ヒューズを交換して下さい。	49~50 49~50 -
ハザードランプが点滅しない。	ハザードハーネスがしっかりと接続されていますか? ハザードハーネス(赤/白コードと緑コード)の接続先が間違っていますか? ハザードハーネスのヒューズが切れていませんか?	接触不良のないよう確実に接続して下さい。 接続先を確認して下さい。 ヒューズ切れの要因を解決してから、ヒューズを交換して下さい。	48 48 -
電波到達距離が短い。	リモコンの電池が消耗していませんか? リモコンのアンテナが体の一部に触れていませんか?	充電を行うか、当社指定の新しい電池と交換して下さい。 アンテナに触れないようにして下さい。	17, 61 -

リモコンの電池交換について

危険	・電池の⊕⊖の逆挿入は絶対にしないで下さい。電池が漏液・発熱・破裂し、故障の原因となります。 ・ニッケル水素電池の液が、誤って目に入った場合は、こすらず、ただちに水道水で十分洗浄し、すぐに医師の診断を受けて下さい。失明の原因となります。
警告	・リモコンの電池を交換した際は、幼児の手の届かないところにおいて、早めに処分して下さい。万一飲み込んでしまった場合やもれた液をなめたりした場合は、すぐにうがいをして医師に相談して下さい。
注意	・長期間リモコンを使用しない場合は、すみやかに電池をリモコンから取り出して下さい。電池の漏液や錆の発生・電池の性能低下や寿命低下の原因となります。 ・ネジを締めるときは、締めすぎたり、ゆるまないようきちんと締めて下さい。部品の紛失や損傷の原因となります。 ・リモコンの内部を損傷させたり、異物を入れたりしないで下さい。故障の原因となります。

電池の交換方法については、16ページの「電池の挿入」を確認して下さい。

- メモ** ・充電電池は消耗品です。充電を繰り返すことで、徐々に使用出来る時間が短くなります。約1年毎の交換をお奨めします。
・電池は温度の影響を受け易い性質を持っています。例えば、冬の寒い環境で使用した場合、暖かい環境で使用したときに比べ「電池残量アイコン」が早く減る傾向となります。室内に入るなどして温度が上がると、減っていたはずの「電池残量アイコン」が増えることもあります。
・使い終わった電池の⊕および⊖端子部にテープなどを貼り、絶縁して各自自治体の指示に従って、処分して下さい。

当社指定充電電池:Panasonic製 ニッケル水素電池 単4形 HHR-4MPS または HHR-4SPS

リモコンの購入について

リモコンは、最大4個(本品リモコン含む)まで登録可能です。
リモコンの増設や紛失・破損をした場合は、リモコンのみ購入が出来ます。お買い求めの際は、販売店に注文して下さい。

- メモ** リモコンを購入して頂くだけで、お客様自身で簡単にリモコンの登録が出来ます。

仕様

●リモコン 型式名 :SHX-01 技術基準 :ARIB STD-T67特定小電力無線局 テレメータ用・テレコントロール用 およびデータ伝送用無線設備 通信方式 :単信方式 電波の型式 :F1D 使用周波数 :429MHz 空中線電力 :10mW以下 スイッチ :SET/RST/STG/FUNC アンテナ :ヘリカルアンテナ 動作温度範囲 : -10℃~+50℃ 充電可能温度範囲 : +5℃~+35℃ 定格電圧 :DC1.2V 使用電池 :Panasonic製 ニッケル水素電池 単4形 HHR-4SPS 重量 :44.5g(電池除く) 外観寸法 :91mm×36mm×21.5mm <H×W×D>	●アンテナユニット 型式名 :SMX-01 技術基準 :ARIB STD-T67特定小電力無線局 テレメータ用・テレコントロール用 およびデータ伝送用無線設備 通信方式 :単信方式 電波の型式 :F1D 使用周波数 :429MHz 空中線電力 :10mW以下 アンテナ :可倒式ラバーアンテナ 動作温度範囲 : -40℃~+85℃ 消費電流 :待機時 9.5mA以下 (DC12V時) 警戒時 11.5mA以下 省エネモード時 11mA以下 スリープモード時 0mA 重量 :80g 外観寸法 :165mm×45mm×62mm <H×W×D>
●本体 動作温度範囲 : -40℃~+85℃ 電源電圧 :DC12V(DC9V~16V) 消費電流 :待機時 6mA以下 (DC12V時) 警戒時 7mA以下 省エネモード時 5.5mA以下 スリープモード時 1.5mA以下 重量 :132g 外観寸法 :24mm×120mm×80mm <H×W×D>	●振動センサー 動作温度範囲 : -40℃~+85℃ 消費電流 :警戒時 3mA以下 重量 :20g 外観寸法 :20mm×52.7mm×33.3mm <H×W×D>
【V-2装着時の車両側消費電流】 待機時 :15.5mA以下 警戒時 :21.5mA以下 省エネモード時 :16.5mA以下 スリープモード時 :1.5mA以下	●サイレン 動作温度範囲 : -40℃~+100℃ 消費電流 :1.0A(吹鳴時平均値) 重量 :150g(本体のみ) 外観寸法 :58.5mm×58.5mm×66.5mm <H×W×D>

※仕様および外観は、予告なく変更することがあります。

Guardog V-2

MITSUBA SPECIAL CAR SECURITY ALARM SYSTEM

取付・取扱説明書

製造・販売元 株式会社 **ミツバサンコーワ**

〒376-0102 群馬県みどり市大間々町桐原3546-1

●取り付けなど、技術的な問い合わせ窓口:株式会社ミツバサンコーワ 技術サービス

TEL. 0277-72-4588

Y-064-003-A